

茨城県教育財団文化財調査報告第342集

宍戸城跡 2

主要地方道大洗友部線道路改良
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

平成23年3月

茨城県水戸土木事務所
財団法人茨城県教育財団

宍戸城跡 2

主要地方道大洗友部線道路改良
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

平成23年3月

茨城県水戸土木事務所
財団法人茨城県教育財団

序

茨城県では、均衡ある発展を念頭におきながら、地域の特性を活かした振興を図るために、高規格幹線道路などの県土基盤の整備とともに、広域的な交通ネットワークの整備を進めています。

主要地方道大洗友部線道路改良事業は、茨城県が笠間市（旧友部町）宍戸地区において、市内の混雑緩和と北関東自動車道友部インターチェンジへのアクセス向上を図るために計画されたものです。

しかしながら、この事業予定地内には宍戸城跡が所在し、記録保存の措置を講ずる必要があるため、当財団が茨城県水戸土木事務所から埋蔵文化財発掘調査の委託を受け、平成16年12月から平成17年2月までと平成22年1・2月の2回にわたりこれを実施し、平成16年度分については平成18年3月報告書を刊行しました。

本書は、平成22年1月から2月に実施した宍戸城跡の調査成果を収録したものです。学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である茨城県水戸土木事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、笠間市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し深く感謝申し上げます。

平成23年3月

財団法人茨城県教育財团

理事長 稲葉節生

例　　言

- 1 本書は、茨城県水戸土木事務所の委託により、財団法人茨城県教育財團が平成21年度に発掘調査を実施した茨城県笠間市平町1455番地ほかに所在する宍戸城跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査	平成22年1月1日～2月28日
整理	平成22年9月1日～10月31日
- 3 発掘調査は、調査課長池田晃一のもと、以下の者が担当した。

首席調査員兼班長	白田正子
主任調査員	小川貴行
調査員	作山智彦
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長樺村宣行のもと、調査員前島直人が担当した。
- 5 本書の製作にあたり、当遺跡から出土した木器・木製品の保存処理と樹種同定については、株式会社吉田生物研究所に委託し、同定結果は付章として巻末に掲載した。

凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標に準拠し、X = + 37.920 m, Y = + 40.600 mの交点を基準点（A 1a1）とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A, B, C …、西から東へ 1, 2, 3 … とし、「A 1 区」「B 2 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a, b, c … j、西から東へ 1, 2, 3, … 0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1a1 区」「B 2b2 区」のように呼称した。

2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 HK - 整地層 SA - 杭列跡 SD - 溝跡 SE - 井戸跡 SG - 池跡 SK - 土坑

SX - 不明遺構 PG - ピット群

遺物 DP - 土製品 M - 金属製品・銭貨 Q - 石器・石製品 T - 瓦 TP - 拓本記録土器

W - 木器・木製品・漆器

土層 K - 掘乱

3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

●上器 ○土製品 □石器・石製品 △金属製品・銭貨 ■木器・木製品・漆器

4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物については、各総量で記載した。

5 遺構一覧表・遺物観察表の表記については、次のとおりである。

(1) 現存値は（ ）を、推定値は〔 〕を付して示した。計測値の単位は m, cm, kg, g で示した。

(2) 遺物観察表の備考欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

6 壑穴住居跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。

目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
宍戸城跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	3
第2章 位置と環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査の成果	9
第1節 遺跡の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	10
1 中世・近世の遺構と遺物	10
(1) 井戸跡	10
(2) 池跡	11
(3) 土坑	14
(4) 堀跡	16
(5) 溝跡	25
(6) 杭列跡	29
(7) ピット群	30
2 その他の遺構と遺物	36
(1) 整地層	36
(2) 不明遺構	43
(3) 遺構外出土遺物	44
第4節 まとめ	47
付 章	
写真図版	
抄 錄	

しし ど じょう 宍戸城跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

宍戸城跡は、笠間市（旧友部町）の東部に位置し、東流する涸沼川左岸の標高 26 m の沖積低地に立地しています。今回の調査は、主要地方道大洗友部線の道路改良事業に先だって行いました。道路予定地内に当遺跡があることから、遺跡の内容を図や写真に記録するために、茨城県教育財団が発掘調査を実施しました。



調査の内容

288m²の面積を調査した結果、中・近世の井戸跡1基、池跡2か所、土坑6基、堀跡2条、溝跡4条、杭列跡1か所、ピット群4か所、整地層3層などを確認しました。主な出土遺物は、土師質土器（皿・鍋・鉢・火鉢・焼塩壺・擂鉢）、瓦質土器（鍋・火鉢・甕・擂鉢・十能）、陶器（碗・皿・鉢・向付・茶入）、磁器（碗・杯・皿）、金属製品（煙管・小柄・毛抜き・鋤）、銭貨（皇宋通宝・祥符元宝・元祐通宝・寛永通宝）、木製品（椀・蓋・下駄・柱・杭・曲物）、土製品（土人形・土鈴）などです。



南側上空から見た調査区



近世に描かれた宍戸城下絵図（左）と現在の地図（右）

平成16年度と今回に調査を行った場所は、丸印が付いている場所にあたります。この場所は、宍戸城の本丸からみて南側に位置し、武家屋敷が立ち並んでいた場所にあたります。2回にわたる調査によって、溝によって区画整備された屋敷内に池と井戸が1か所ずつ設置されていたことが判明しました。



出土した陶器類と金属製品

織部・志野・唐津焼といった当時でも高級品の陶器類が多数出土しました。特に織部焼は珍しく、当時の武家社会に茶道が浸透していた事を裏付ける資料となります。そのほか、鍍金された小柄や、文様が描かれた毛抜き、下駄や漆器といった生活に密接な遺物なども出土しました。



第1号堀跡遺物出土状況

堀跡から土師質の皿や下駄が出土した様子です。この堀跡は近世に描かれた絵図に記載されていないことから、絵図が描かれる前の堀と考えられます。堀跡は一度自然に土が堆積して埋まった後にもう一度掘り直しがされていることが分かりました。

調査の成果

今回の調査で出土した、織部・志野・唐津焼といった陶器や、明から輸入された磁器などの高級陶磁器は広範な流通や商圈の拡大、あるいは遠隔地との人・物的交流により入手されたものと考えられます。

遺構では、池跡や井戸跡が確認でき、武家屋敷の様相の一端が判明しました。また、堀跡は近世に描かれた絵図に記載がないことから、中世城跡の堀と考えられ、中世城館の縄張りを考える上で貴重な資料になるものと思われます。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

茨城県水戸土木事務所は、笠間市において主要地方道大洗友部線の道路整備を進めている。

平成20年10月14日、茨城県水戸土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、主要地方道大洗友部線道路改良事業地における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けた茨城県教育委員会は、これまでの発掘調査の成果等から紹介地内への遺跡の広がりが明確であるとし、現地踏査は実施せず、平成20年10月22日と11月7日に試掘調査を実施し、宍戸城跡の所在を確認した。

平成21年2月6日、茨城県教育委員会教育長は茨城県水戸土木事務所長あてに、事業地内に宍戸城跡が所在すること、及びその取扱いについて別途協議が必要である旨を回答した。

平成21年2月16日、茨城県水戸土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第94条の規定に基づき、土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。平成21年2月24日、茨城県教育委員会教育長は現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、茨城県水戸土木事務所長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成21年3月6日、茨城県水戸土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して主要地方道大洗友部線道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。

平成21年3月27日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県水戸土木事務所長あてに、宍戸城跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、あわせて調査機関として、財團法人茨城県教育財團を紹介した。

財團法人茨城県教育財團は、茨城県水戸土木事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成22年1月1日から平成22年2月28日まで発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

調査は、平成22年1月1日から2月28日まで発掘調査を実施した。その概要を表で記載する。

工程	月			
	1月		2月	
調査準備				
表土除去				
遺構確認				
遺構調査				
遺物洗浄				
注記				
写真整理				
補足調査				
撤収				

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

穴戸城跡は、茨城県笠間市平町 1455 番地はかに所在している。

笠間市は県のはば中央部に位置している。市域地形は、北東部が、八溝山地から張り出した鶴足山塊に属する標高 100 ~ 200 m の友部丘陵、南東部が旧友部町域の大部分を占める標高 30 ~ 40 m の東茨城台地と呼ばれ、国見山付近に水源をもつ潤沼川は、市域のはば中央を東流し、枝折川や潤沼前川を合わせながら、潤沼に注いでいる。これらの中・小河川は流域に沖積低地を発達させ、現在では豊かな水田地帯となっている。

台地の地質は、砂・礫・粘土層によって構成される第三紀層を基盤とし、上層には関東ローム層が堆積している。

当遺跡は、笠間市（旧友部町域）の東部に位置し、潤沼川が形成した沖積低地をのぞむ標高 28 ~ 35 m の舌状台地の東側に広がる標高 25 m ほどの沖積低地に立地している。調査前の現況は、雑種地である。

第2節 歴史的環境

ここでは、笠間市域のうち、当遺跡の所在する旧友部町域にしほって、当遺跡に関係する遺跡を記述する。

潤沼川と潤沼前川に挟まれた台地は、縄文時代から人々の生活の場であった。これらの河川に面する台地の縁辺部一帯には広く縄文土器の散布地が認められ、旧友部町域だけでも、大古山遺跡（14）や星山遺跡など 43 か所の遺跡が確認されている。¹⁾

弥生時代の遺跡については、これまで発掘調査が少なかったために、希薄な地域とされてきた。しかし、1990 年に旧友部町域南東部の久保塚群や向原遺跡において竪穴住居跡が確認された²⁾。2003 年には三本松遺跡において大量の土器と共に 15 軒の竪穴住居跡が確認され³⁾。当該期においても大規模な集落の存在が知られるようになってきた。各遺跡は縄文時代と同様に、両河川に面する台地の縁辺部に立地している様子がうかがえる。近年、潤沼川流域は在地の十王台式土器や下種吉式土器に外来系の二軒屋式土器や樽式土器などが共存して出土する例が増加しており、地域間の交流をつかむ良好な地域として知られるようになってきている。

古墳時代になると、集落は台地の縁辺部に、古墳はそれに加えて台地のやや奥まった側面にも認められるようになる。古墳群は 26 か所を数え、そのうち旧友部町域北東部の古墳群としては柳沢古墳群や一本松古墳群があげられる。特に一本松古墳群に属する山王塚古墳は径 50 m ほどの円墳で、前方部が削られた前方後円墳が本来の墳形であったとする説もある。また、北西側に位置する源訪山古墳は全長 62.4 m の前方後円墳で、これらの古墳の存在は被葬者の権力の大きさを示すものと考えられる。一方、古墳を築造した集団の基盤となる集落域の分布は必ずしも明確ではないが、小原遺跡⁴⁾や久保塚群、新善光寺跡（15）などからも前期の竪穴住居跡⁵⁾が確認され、徐々にではあるが資料が増加している。

奈良・平安時代は、古代郡賀郡（町域東部）と茨城郡（町域西部）の両郡にまたがっており、当遺跡は茨城郡石間（岩間）郷内の北縁部に位置していたと思定される。当該期の集落跡としては、当遺跡の南東約 1 km にある東平遺跡⁶⁾や北平遺跡⁷⁾（6）、北東約 5 km にある三本松遺跡などが確認されているが、調査事例を見る限り、古墳時代から継続する集落はほとんど見られず、奈良・平安時代になって新たに形成されたものが多い。

中世において、当地を支配するのは、総領家の小田氏と常陸守護職を継承しあう宍戸氏である。鎌倉時代の守御所を含め、宍戸氏の居館は特定されていないが、町内に宍戸氏と関連する寺社が多く存在することから、秋田氏居住の宍戸城跡やその東隣に立地する古館にその地を比定しても不自然ではない。本領である「小鶴莊」の莊名と名字の不一致、及び莊城に「宍戸」なる地名が全く存在しない点はよく指摘されるところであるが、14世紀前半には「宍戸莊」という呼び方が確実に存在していること⁸⁾や「宍戸」を広域地名と見る考え方も示されていること⁹⁾から、宍戸地区を本拠地と見るのが妥当と思われる。その後、戦国期においては佐竹氏麾下の将として命脈を保った宍戸氏は、1595年に佐竹氏の命により真壁郡海老ヶ島城へ移転することになった。旧領は佐竹氏一族や家臣が分知することになり、宍戸氏の菩提寺として鎌倉時代に建立された新善光寺は、この配置替えに伴って海老ヶ島城内へ移転し現在に至っている。

近世になると、佐竹氏の秋田移封と入れ替わるようにして秋田氏が宍戸城に入城し5万石を領した。1645年に秋田氏の陸奥三春への国替えに伴い領地が幕府の直轄地に編入されると、宍戸城は破却され、武家屋敷も取り壊されてその大部分が水田となった。1682年には松平氏を藩主として再び宍戸藩が成立するが、わずか1万石の小大名であることや定府制をとることなどから、城下町としての規模は前代に比して著しく縮小しており、水田化された武家屋敷が再び城下に組み込まれることはなかった。

* 文中の＜＞内の番号は、表1及び第1図の該当番号と同じである。

註

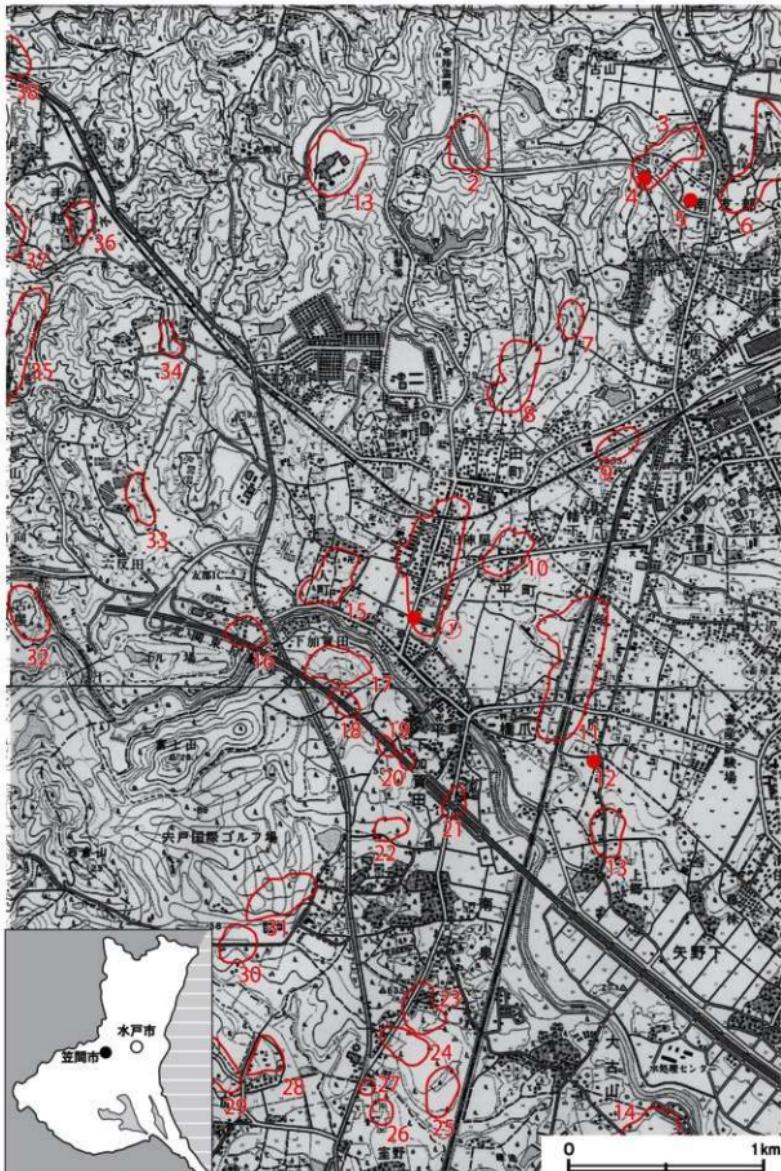
- 1) 茨城県教育文化課『茨城県遺跡地図（地名表編・地図編）』茨城県教育委員会 2001年3月
- 2) 長岡正雄 仲村浩一郎「総合流通センター整備事業地内埋蔵文化財調査報告書 仲丸遺跡 久保塚群 五万振古道 向原遺跡 向原塚群 前原塚 志丸塚』『茨城県教育財团文化財調査報告』第162集 2000年3月
- 3) 早川泉 板野晋鏡、伊藤俊治 東平草『三本松遺跡』友部町三本松遺跡発掘調査会 2003年3月
- 4) 稲田義弘『新善光寺跡、宍戸城跡 主要地方道大洗友部線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書』『茨城県教育財团文化財調査報告』第256集 2006年3月
- 5) 蛇部敬史 小野真美、萩原明美 山本久『小原遺跡』大成エンジニアリング株式会社 友部町小原遺跡発掘調査会 2004年3月
- 6) 平松孝志『北関東自動車道（友部～水戸）建設工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 寺山遺跡 東平遺跡 坂ノ上塚群』『茨城県教育財团文化財調査報告』第150集 1999年3月
- 7) 能鳥清光 山口憲一 高橋孝之『北平遺跡』友部町北平遺跡発掘調査会 2004年3月
- 8) 如意輪時（旧友部町上市原）の鶴口に嘉慶3年（1828年）と完（穴）戸莊の跡が記されている。
- 9) 茨城町史編さん委員会『茨城町史 通史編』茨城町 1995年2月

参考文献

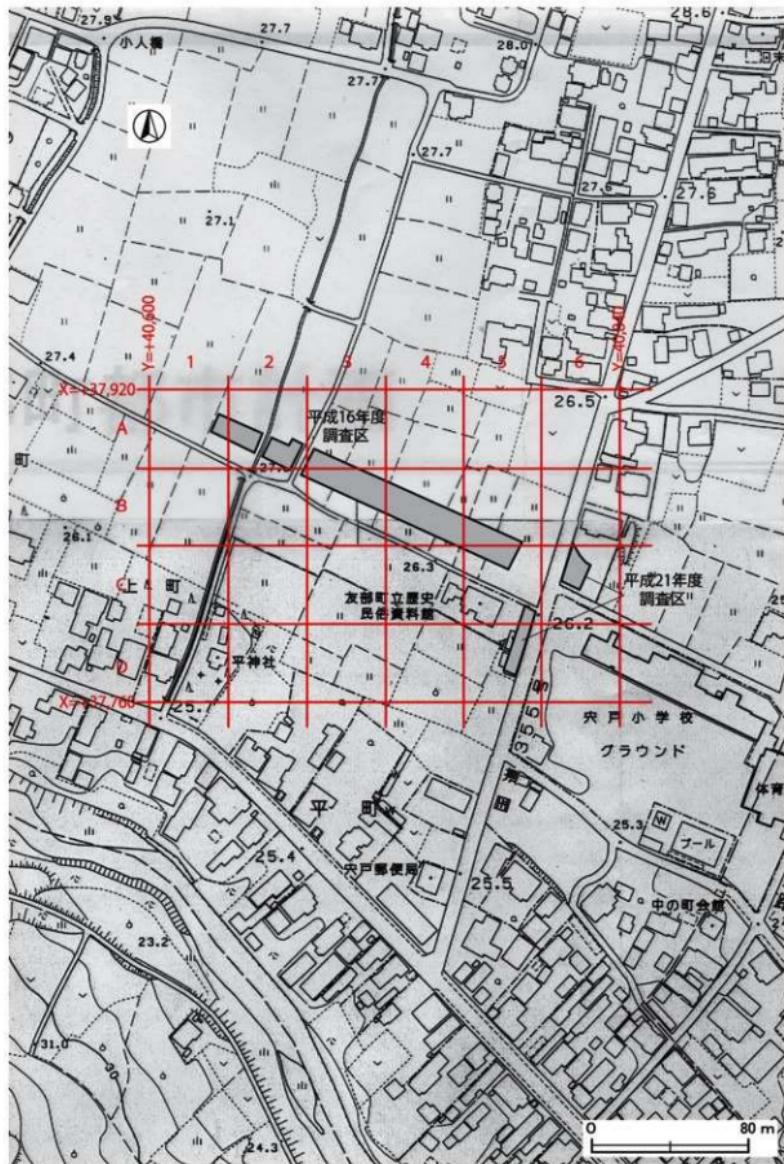
- 近藤恒重『大戸下郷道路 主要地方道内原塙崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』『茨城県教育財团文化財調査報告』第216集 2004年3月

表1 宍戸城跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代					
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世
①	宍戸城跡					○	○	20	古峯A遺跡	○	○	○	○	○	○
2	北山遺跡	○				○		21	古峯B遺跡	○	○	○	○	○	○
3	久保遺跡	○		○				22	富士山古墳群			○			
4	大塚古墳			○		○		23	南小泉遺跡	○			○	○	
5	丹後塚古墳			○		○		24	佐藤林古墳群			○			
6	北平遺跡	○	○		○			25	佐藤氏館跡					○	
7	猿丸塚古墳群			○				26	室野東遺跡	○		○	○	○	○
8	完全寺後遺跡	○	○	○	○	○	○	27	室野北遺跡			○	○	○	○
9	二ツ塚古墳			○				28	下菅谷遺跡			○	○	○	
10	古館				○			29	滝尻遺跡			○	○	○	○
11	橋爪遺跡	○	○					30	善九郎古墳群			○			
12	宝藏古墳			○				31	善九郎遺跡	○					
13	上郷遺跡	○	○	○	○	○		32	上加賀田城跡					○	
14	大古山遺跡	○	○	○	○	○		33	星山遺跡	○			○		
15	新善光寺跡	○	○	○		○	○	34	八反山遺跡	○			○		
16	高土台塚古墳群					○		35	大池遺跡	○					
17	下加賀田遺跡	○	○	○	○	○		36	早稲田遺跡	○			○		
18	東平遺跡	○	○	○	○	○		37	間瀬久保遺跡				○		
19	坂の上塚群			○		○		38	羽根石遺跡	○		○			



第1図 宍戸城跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の1「笠間」「友部」）



第2図 宍戸城跡調査区設定図（都市計画図から作成）

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

穴戸城跡は、笠間市の中央部（旧友部町）に位置し、東流する涸沼川左岸の標高26mの沖積低地に立地している。調査面積は288m²で、調査前の現況は雑種地である。

今回の調査で、中・近世の井戸跡1基、池跡2か所、土坑6基、堀跡2条、溝跡4条、杭列跡1か所、ピット群4か所、整地層3層、不明遺構1基を確認した。

遺物は、遺物コンテナ(60×40×20cm)に20箱出土している。主な遺物は、土師質土器(皿・鍋・鉢・火鉢・焼塩壺)、瓦質土器(鍋・火鉢・甕・擂鉢・十能)、陶器(碗・皿・鉢・向付・茶入)、磁器(碗・杯・皿)、金属製品(煙管・小柄・毛抜き・鉈)、錢貨(皇宋通宝・祥符元宝・元祐通宝・寛永通宝)、木器・木製品(椀・蓋・曲物・下駄・鐵・柱・杭)、石器・石製品(石皿・硯・不明品)、土製品(土人形・土鈴)などである。

第2節 基本層序

平成16年度調査時はB2b0区にテストピットを設定し、基本土層の観察を行っている（第3図）。観察結果は以下の通りである。

第1層は、黒色を呈する耕作土で、砂粒と鉄分を微量含んでいる。層厚は20～32cmである。

第2層は、黒褐色を呈する粘土質の黒色土層で、鉄分を微量含んでいる。層厚は9～15cmである。

第3層は、暗褐色を呈する粘土層への漸移層で、黄色粘土粒子を少量含んでいる。層厚は2～6cmである。

第4層は、にぶい黄褐色を呈する黄色粘土層である。下層が湧水により未掘のため、本来の層厚は不明である。

今回の調査では、調査区全域に遺構が広がって確認できたため、調査区Ⅱ区の北西壁際の土層で地山層までの観察結果で補う（第4図）。

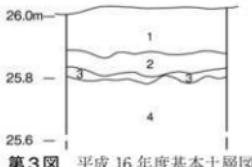
第1層は、黒褐色を呈する耕作土で、細礫を少量と黄褐色粘土を微量含んでいる。粘性は弱く締まりは普通で、層厚は12～26cmである。前回の調査における第1層と同一層と考えられる。

第2層は、黒褐色を呈する整地層で、鉄分を中量、黄褐色粘土を多量、細礫を少量、砂粒を微量含んでいる。粘性は弱く締まりは強く、層厚は4～10cmである。前回の調査では確認されていない。

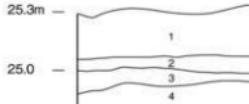
第3層は、黒褐色を呈する整地層で、鉄分・黄褐色粘土ブロック・細礫・砂粒を少量含んでいる。粘性・締まりともに強く、層厚は2～12cmである。前回の調査では確認されていない。

第4層は、暗褐色を呈する地山層で、前回の調査における第3層と同一層と考えられる。なお下層は未掘のため不明である。

なお、遺構は第2～4層からそれぞれ確認できた。



第3図 平成16年度基本土層図



第4図 平成21年度基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 中・近世の遺構と遺物

当時期の遺構は、井戸跡1基、池跡2か所、土坑6基、堀跡2条、溝跡4条、杭列跡1か所、ピット群4か所を確認した。以下、遺構の特徴と出土した遺物について記述する。

(1) 井戸跡

第8号井戸跡（第5図）

位置 調査区II区の南側のD 5e7区、標高24.8mの低地平坦部に位置している。

重複関係 第4号杭列と第7号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.03m、短径1.68mの楕円形で、長径方向はN-29°-Eである。確認面から円筒状に掘り込まれている。130cm程掘り下げた段階で、崩落のおそれがあることから、下部の調査を断念した。

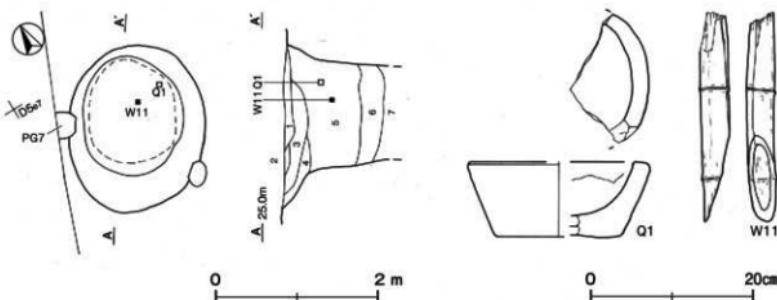
覆土 7層に分層できる。覆土中層から難が多数出土したことから埋め戻されている。第7層から下部は未掘のため不明である。

土層解説

1 オリーブ黒色 鉄分中量	5 オリーブ黒色 鉄分少量
2 灰オリーブ色 鉄分中量	6 灰 色 砂粒・鉄物遺体中量
3 灰オリーブ色 灰化物・鉄分少量	7 握 色 ローム粒子多量
4 灰オリーブ色 褐色土粘土ブロック少量	

遺物出土状況 土師質土器2点（皿、鍋）、陶器片1点（擂鉢）、木製品5点（杭）、石製品1点（石臼）が出土している。Q1は北部、W11はほぼ中央部のそれぞれ覆土中層から出土している。

所見 時期は、第2次整地層の下層で確認したことや出土土器から17世紀前半以前に比定できる。



第5図 第8号井戸跡・出土遺物実測図

第8号井戸跡出土遺物観察表（第5図）

番号	器種	口径	器高	底径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	石臼	[22.0]	9.2	[15.2]	7680	玄武岩	底部から側面2/3まで掘り跡による摩耗	覆土中層	Pt.7

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	材質	特徴	出土位置	備考
W11	木製品	杭	25.8	37	37	竹	一方向からの加工	覆土中層	

(2) 池跡

第4号池跡(第6・7図)

位置 調査区I区の北西部のC 6c5区、標高25.0mの低地平坦部に位置している。

重複関係 第2号堀跡を掘り込み、第7号溝と第5号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 西部が調査区域外に延びているため、北東・南西径は4.5mで、北西・南東径は5.7mしか確認できなかった。形状は不整規円形で、長径方向はN-60°-Wである。深さは30cmで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

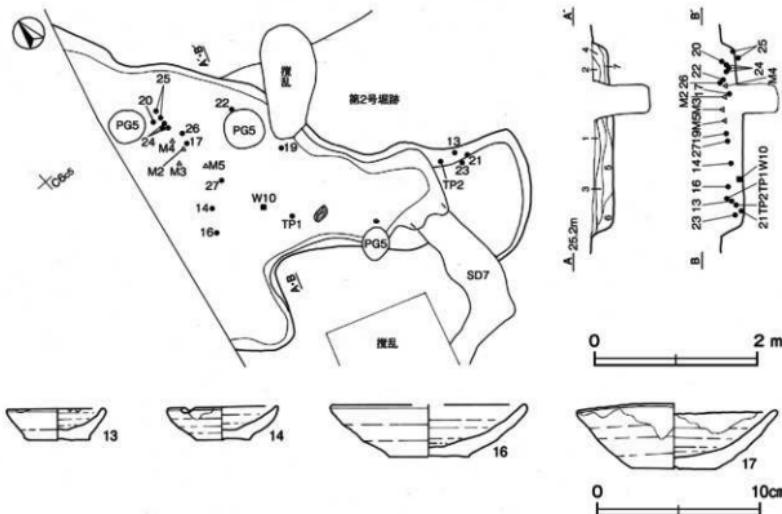
覆土 7層に分層できる。粘土ブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

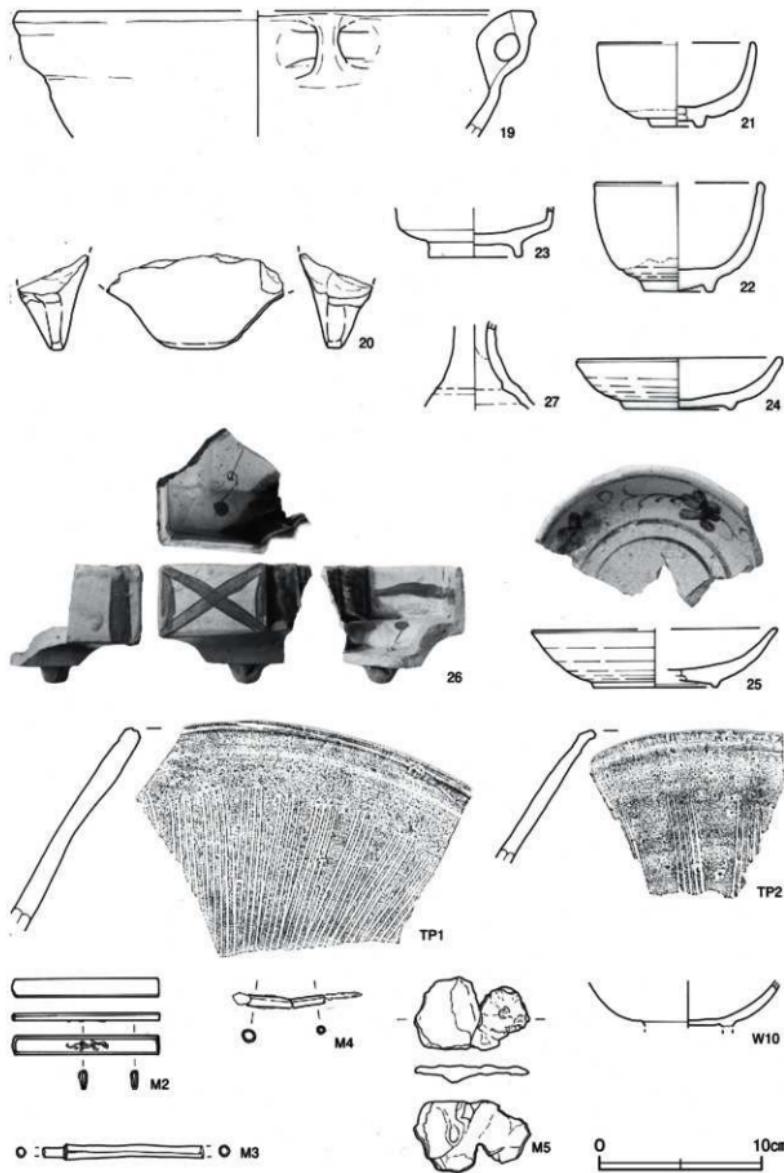
1 黒 極 色 灰白色砂粒少量	5 極 灰 色 黄褐色粘土ブロック中量
2 極 灰 色 灰白色砂粒少量	6 黒 極 色 灰白色砂粒微量
3 黒 極 色 にほい黄褐色砂粒中量	7 黒 極 色 灰白色砂粒微量
4 黒 極 色 黄褐色粘土ブロック・灰白色砂粒微量	

遺物出土状況 土師質土器片62点(皿54、擂鉢2、鍋6)、瓦質土器片4点(内耳鍋1、擂鉢2、火鉢1)、陶器片8点(碗1、皿2、向付1、徳利1、擂鉢3)、金属製品4点(小柄1、煙管2、鐵滓1)、木製品7点(漆器椀1、杭4、角材1、木片1)、土製品4点(不明)、蝶12点、炭化種子(桃)7点が出土している。また混入した土師器片1点(杯)も出土している。25は北部、21とW10は南部の覆土下層、13・23・TP1・2は南部、17は中央部、24は北部の覆土中層、20・22・26は北部、19・27・M2は中央部の覆土上層からそれぞれ散在した状態で出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から17世紀前半に比定できる。



第6図 第4号池跡・出土遺物実測図



第7図 第4号池跡出土遺物実測図

第4号池跡出土遺物観察表（第6・7図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法・文様の特徴ほか	出土位置	備考
13	土師質土器	皿	5.9	1.9	3.6	長石・石英・漂母・ 赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	ロクロ成形 油焼付着	覆土中層	95% PL5
14	土師質土器	皿	6.5	2.0	3.2	石英・漂母・小礫	にぶい根付	普通	ロクロ成形 底部回転赤切り 油焼付着	覆土中	100% PL5
16	土師質土器	皿	[11.7]	3.2	4.4	長石・石英・漂母	にぶい根付	普通	ロクロ成形 底部回転赤切り	覆土中	50%
17	土師質土器	皿	12.0	4.0	5.2	長石・石英・漂母	にぶい根付	普通	ロクロ成形 底部回転赤切り 製造日記狂真油焼付着	覆土中層	60%
19	瓦質土器	内耳鉢	[31.4]	[7.7]	-	長石・石英・漂母	黒褐色	普通	1耳残存 耳貼り付け 外面焼付着	覆土上層	
20	瓦質土器	火鉢	-	(5.8)	-	長石・石英・漂母	黄灰	普通	脚窓ナデ	覆土上層	5%
21	陶器	碗	Φ6.6	5.2	[3.2]	精良・灰釉	にぶい 黄褐色・漂母	良好	内外面施釉 高台周辺露胎	覆土下層	志野 40% PL7
22	陶器	碗	[10.1]	6.7	4.1	精良・灰釉	灰白・黒褐色	良好	内外面施釉 高台周辺露胎	覆土上層	志野/灰道 30% PL7
23	陶器	碗	-	(3.1)	(5.8)	精良・灰釉	灰白	良好	内外面施釉 高台周辺露胎	覆土中層	30%
24	陶器	皿	12.3	3.2	6.7	精良・灰釉	灰白・灰	良好	内外面施釉	覆土中層	志野 99% PL7
25	陶器	皿	[10.1]	3.2	[10.1]	精良・灰釉	灰白	良好	内外面施釉 内面灰釉による草花文	覆土下層	志野 40%
26	陶器	両付	-	(7.4)	-	精良・灰釉	灰白	良好	内外面施釉 内面灰釉 灰釉による筋付け 底部周辺無釉	覆土上層	穂部 30%
27	陶器	壺	-	(5.4)	-	精良・灰釉	暗緑灰・ 灰白	良好	内面口部周辺施釉 外面施釉	覆土上層	志道/灰道 PL7

番号	種別	器種	胎土・釉薬	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP 1	陶器	擂鉢	長石・石英・小礫・無釉	灰褐色・ にぶい灰褐色	指口目5条1単位 白線端部に深擦一条	覆土中層	丹波
TP 2	陶器	擂鉢	長石・石英・小礫・さび 釉	にぶい根付	指口目5条1単位	覆土中層	志道

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M2	小柄	9.0	1.1	0.5	G63.0	長・削	1枚板から成形 背面草花文	覆土上層	PL8
M3	櫛管	Φ9.9	0.6	0.6	6.70	削	吸口 1枚板から成形	覆土中	PL8
M4	被管	17.9	0.8	0.7	(2.3)	削	吸口 1枚板から成形	覆土中	PL8
M5	鉄鋤	7.1	4.5	1.1	31.9	鉄	着磁性なし	覆土中	PL8

番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	材質	手法の特徴	出土位置	備考
W10	漆器	瓶	-	G2.8	-	45	ブナ	内面黒漆塗布後に朱漆の帯状・外面部黒漆 脱部に朱漆の一筆書きで「一文字」	覆土下層	PL9

第5号池跡（第8図）

位置 調査区I区の南西部のD 5a8区、標高24.9mの低地の平坦部に位置している。

重複関係 第2次整地層の下層で確認できた。第1号堀跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南西部が調査区域外に延びているため、北東・南西径は3.70mで、北西・南東径は2.70mしか確認できなかった。形状は不整梢円形で、長径方向はN - 23° - Wである。深さは40cmで、底面は中央部が溝状に落ち込むほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 7層に分層できる。細縫を多量に含んでいることから埋め戻されている。

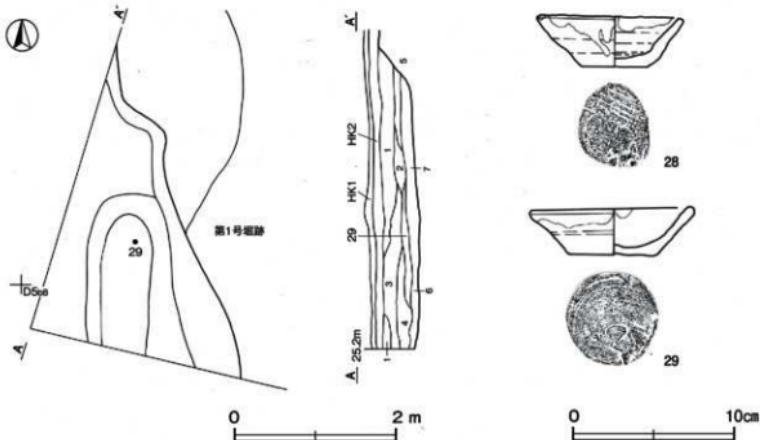
土層解説

1	黒	褐	色	酸化鉄ブロック・炭化物・砂粒少量、中纏微量	4	黒	褐	色	酸化鉄粒子少量、中纏・砂粒微量
2	黒	褐	色	黄褐色粘土ブロック・砂粒少量、繩縫・酸化鉄粒子微量	5	黒	褐	色	酸化鉄粒子・砂粒少量、繩縫微量
3	黒	褐	色	炭化物・砂粒少量、中纏・酸化鉄粒子微量	6	黒	褐	色	繩縫少量、酸化鉄粒子微量

遺物出土状況 土師質土器3点（皿2、火鉢1）、陶器片1点（擂鉢）、炭化種子2点、礫2点が出土している。

29は中央部の覆土下層、28は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、第2次整地層の下層で確認したことや出土土器から17世紀前半以降に比定できる。



第8図 第5号池跡・出土遺物実測図

第5号池跡出土遺物観察表（第8図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	地土・施業	色調	地成	手法・文様の特徴は	出土地点	備考
28	土師質土器	皿	8.7	3.2	4.2	長石・石英	に赤い斑	普通 質	ロクロ成形 底部回転系切り 板口状仕上 油煙付	覆土中	80% PL5
29	土師質土器	皿	10.0	3.0	5.6	長石・石英・雲母 小色粒子	に赤い斑	普通	ロクロ成形 底部回転系切り 油煙付着	覆土下層	100% PL5

表2 池跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規格		覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
4	C6e5	N-60°-W	不整形円形	(5.7) × 4.5	30	人為	平坦	外縁	土師質土器・瓦質土器・陶器・全瓦類品・木製品・土製品	第2号池跡→本跡 → SD 7・PL5
5	D5e8	N-23°-W	不整形円形	(3.7) × (2.7)	40	人為	平坦	外縁	土師質土器・陶器	第1号池跡→本跡

(3) 土坑

遺物が出土した土坑以外は、土層解説と規模・形状を実測図と計測表で記載する。

第31号土坑（第9図）

位置 調査区II区の北部のD 5e7区、標高219mの低地平坦部に位置している。

重複関係 第7号ピット群を掘り込んでいる。

規模と形状 長径272m、短径210mの不整形円形で、長径方向はN-0°である。深さは10cmで、底面は凸凹があり、壁は緩斜して立ち上がりっている。

覆土 2層に分層できる。細・中纏が混じっていることから埋め戻されている。

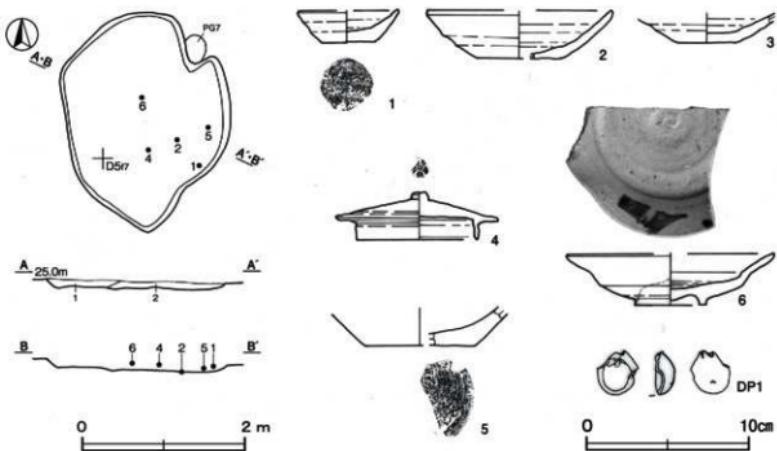
土層解説

1 黄灰土 砂質粘土ブロック・細纏中量

2 墓 灰 黄色 粘土ブロック多量、細纏中量、中纏微量

遺物出土状況 土師質土器片8点（皿6、火鉢1、蓋1）、瓦質土器2点（甕）、土製品1点（土鉢）が出土している。2は南東寄りの底面、1は南東寄り、4は中央よりの覆土上層、5は東壁寄りの覆土下層、6は確認面、3とDPIは覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、第2次整地層の上面に位置していることや出土土器から17世紀前半以降に比定できる。

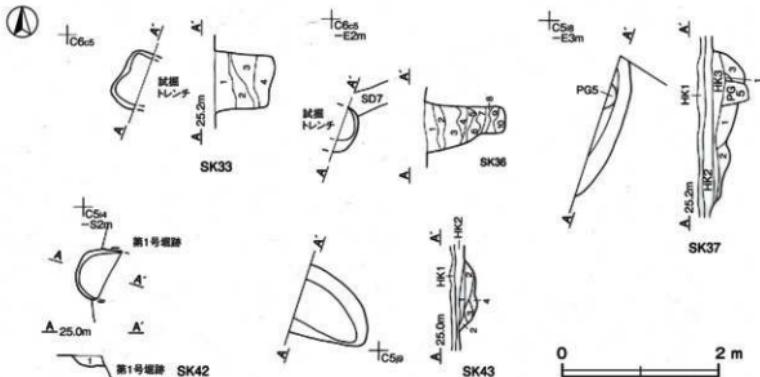


第9図 第31号土坑実測図

第31号土坑出土遺物観察表（第9図）

番号	種別	器種	口径	深さ	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法・文様	符號はか	出土位置	備考
1	土師質土器	壺	6.1	20	3.3	長石・石英・雲母 少量粘土粒子	に赤い斑 普通	ロクロ成形 底部削鉛斜切り			覆土上層	20%
2	土師質土器	壺	[11.2]	30	[4.8]	長石・石英・雲母 少量粘土粒子	に赤い斑 普通	ロクロ成形 底部回転斜切り後ナダ			底面	30%
3	土師質土器	壺	-	(1.9)	3.6	長石・石英・雲母 少量粘土粒子	に赤い斑 普通	ロクロ成形	底部板目状圧痕		覆土中	20%
4	陶器	壺	10.1	29	-	長石・石英	に赤い黄褐色 普通	ロクロ成形	つまみ花弁文様 素焼		覆土上層	60% P1.5
5	土師質土器	壺	-	(1.9)	[4.8]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	ロクロ成形		覆土下層	10%
6	陶器	壺	[12.8]	31	4.4	特良 灰釉	灰白	良好	内面口縁部文様 高台周辺無釉		確認面	含津 40%

番号	器種	大きさ	幅	厚さ	重量	胎土	符號	出土位置	備考
DP1	土器	(2.7)	(2.5)	(1.0)	(4.0)	長石・石英・雲母 少量粘土粒子	ナダ に赤い斑 上端に孔		



第10図 第33・36・37・42・43号土坑跡実測図

第33号土坑土層解説

- 1 黒褐色 黄褐色粘土ブロック中量
- 2 黒褐色 黄褐色粘土ブロック微量
- 3 黒褐色 灰白色粘土ブロック少量
- 4 黒褐色 細繊中量。灰白色粘土ブロック少量

第36号土坑土層解説

- 1 灰白色 灰白色砂質粘土中量
- 2 黑褐色 黄褐色粘土ブロック少量
- 3 黑褐色 灰白色砂質粘土多量
- 4 黑褐色 黄褐色粘土ブロック中量
- 5 黑褐色 黄褐色粘土ブロック微量
- 6 黑褐色 黄褐色粘土ブロック極少量
- 7 灰白色 灰白色砂質粘土極多量
- 8 黑褐色 灰白色砂質粘土微量
- 9 灰白色 灰白色砂質粘土少量
- 10 黑褐色 灰白色砂質粘土中量

第37号土坑土層解説

- 1 暗褐色 鉄分少量。炭化粒子・砂質粘土微量
- 2 暗褐色 鉄分少量。砂質粘土微量
- 3 暗褐色 鉄分中量。質粘土微量

第42号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック中量。鉄分微量

第43号土坑土層解説

- 1 黑褐色 酸化鉄粒子・細繊少量
- 2 黑褐色 酸化鉄粒子中量。細繊少量
- 3 黑褐色 酸化鉄粒子・中纖少量
- 4 黑褐色 酸化鉄粒子・中纖少量(粘性強)

表3 土坑一覧表(第10図)

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆 土	主な出土遺物	推 考 直線距離 (m→耕)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
31	D5e7	N~O°	不整形円形	27.2 × 21.0	10	凹凸	緩斜	人為	土師質土器・土製品	PG7 → 本路
33	C6c5	N~26°E	方形・長方形	0.76 × (0.30)	76	平坦	直立	人為	—	—
36	C6c5	—	円形・椎円形	0.60 × (0.22)	104	平坦	直立・外傾	人為	木杭	SD7 → 本路
37	C5b8	—	—	(1.88) × (0.28)	28	—	緩斜	人為	—	本路 → PG6, HK1・2・3
42	C5b9	—	[円形]	0.68 × (0.40)	15	皿状	緩斜	人為	—	本路 → 第1号堤路
43	C5b8	N~68°W	橢円形	(0.98) × 0.93	23	皿状	緩斜	人為	—	本路 → HK1・2

(4) 堀跡

第1号堀跡(第11~13図)

位置 調査区Ⅱ区の北部と南部のC 5i9区からD 5e7区で、標高24.6mの低地平坦部に位置している。

重複関係 第5号池、第42号土坑、第8・11号溝、第8号ビット群に掘り込まれている。

規模と形状 両端が調査区域外に延びているため、確認できた長さは28.20mである。D 5e7区からC 5i9区にかけて北東方向(N~12°~E)に直線状に延びている。規模は確認できた範囲では、上幅3.40m、下幅2.20m、深さ123cmである。断面は台形で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 21層に分層できる。粘土ブロックや礫が混じっていることから埋め戻されている。

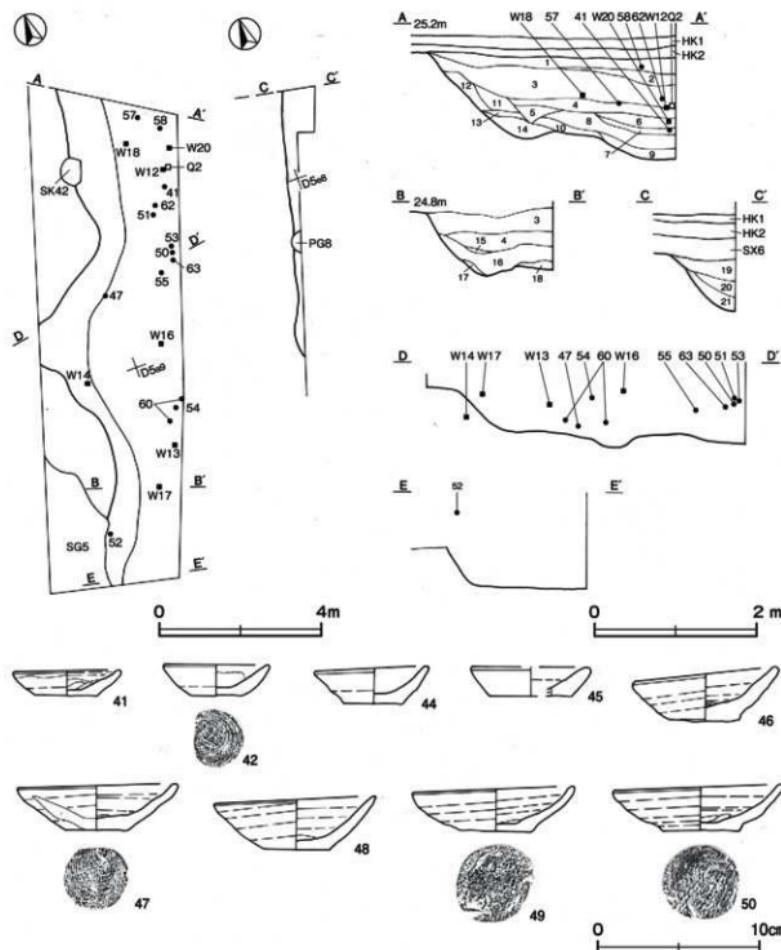
土層解説

- 1 黒褐色 漬化鉄粒子・砂粒中量。細繊・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 砂質粘土ブロック・細繊中量。中纖少量
- 3 黑褐色 灰色粘土ブロック・細繊微量
- 4 黑褐色 黄色粘土ブロック中量。炭化物・細繊少量
- 5 黑褐色 黄色粘土ブロック・細繊少量
- 6 黑褐色 細繊中量。黄色粘土ブロック・炭化物微量
- 7 オリーブ黒色 砂粒多量。黄色粘土ブロック少量。細繊・炭化物微量
- 8 黑褐色 植物遺体・砂粒・細繊少量
- 9 黑褐色 植物遺体・砂粒少量。細繊微量
- 10 黑褐色 灰色粘土ブロック・砂粒少量。細繊微量
- 11 黑褐色 黄色粘土ブロック・細繊微量
- 12 黑褐色 漬化鉄ブロック微量
- 13 黑褐色 砂粒多量
- 14 黑褐色 黄色粘土ブロック・砂粒少量
- 15 黑褐色 砂粒中量。細繊微量
- 16 黑褐色 細繊・砂粒微量
- 17 黑褐色 黄色粘土中量。砂粒少量。細繊微量
- 18 黑褐色 灰色粘土ブロック・細繊少量
- 19 オリーブ色 灰色粘土粒子少量。細繊微量
- 20 オリーブ色 灰色粘土ブロック・細繊微量
- 21 オリーブ色 灰色粘土ブロック中量。細繊微量

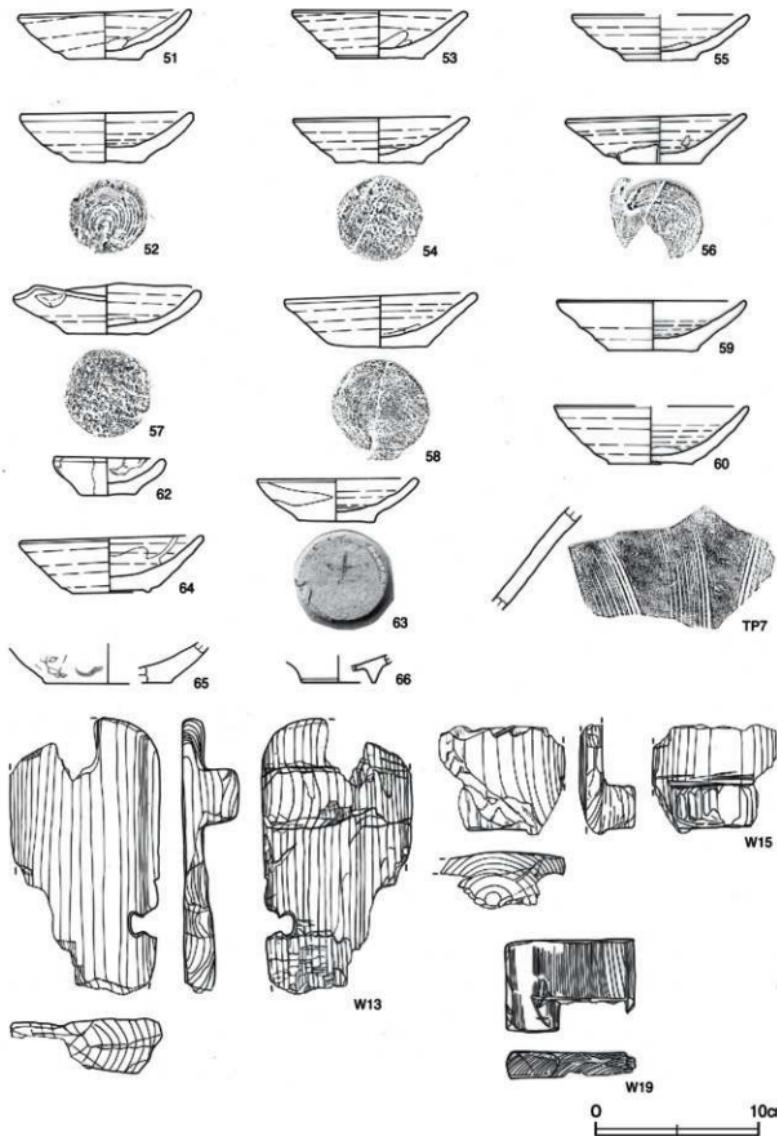
遺物出土状況 土師質土器片178点(皿153、甕11、鉢1、内耳鍋1、擂鉢1、火鉢11)、瓦質土器片18点(火鉢)、陶器片1点(火鉢)、磁器片1点(碗)、石製品1点(不明)、木製品19点(漆器1、曲物1、下駄3、

杭 10、板材 2、木片 2)、自然遺物 1 点(自然木)、炭化種子 4 点(桃)が出土している。47・60・W14 は中央部、41 は北東部のそれぞれ覆土下層、57・62・W12・W18 は北部、53・55・63 は東部、54 は南部、50 は北東部、W13 は南東部の覆土中層からそれぞれ出土している。W16・W17 が南部の覆土上層から出土している以外は、覆土中から散在して出土している。

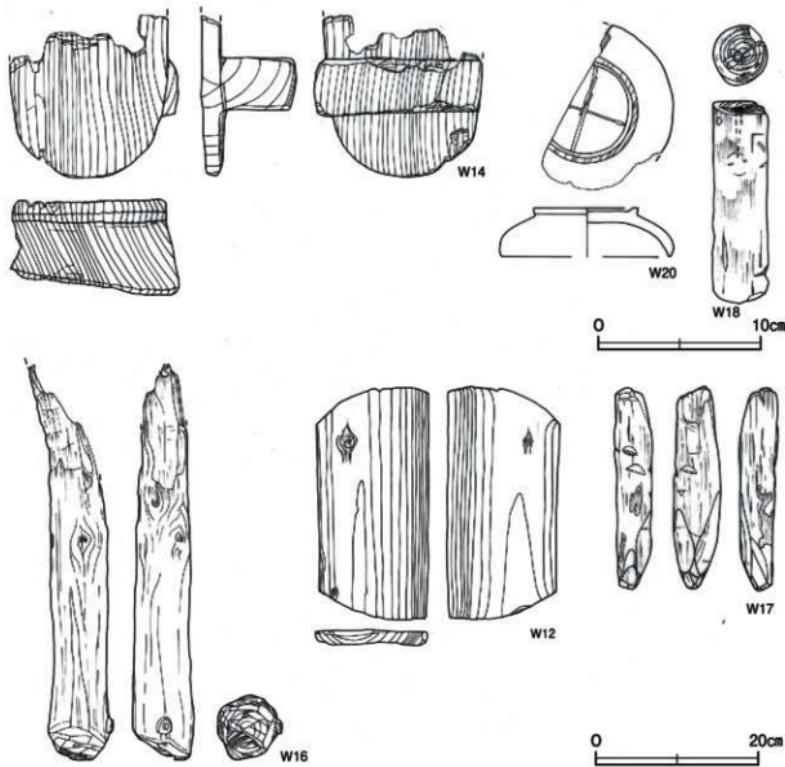
所見 時期は、重複関係と出土土器から 17 世紀前半以前に比定できる。整地層の下層から確認でき、正保年間に作成された宍戸城下絵図に記載が見られないことから、それ以前に機能していた堀の可能性が考えられる。



第 11 図 第 1 号堀跡・出土遺物実測図



第12図 第1号堀跡出土遺物実測図（1）



第13図 第1号堀跡出土遺物実測図（2）

第1号堀跡出土遺物観察表（第11・12・13図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・施釉	色調	焼成	手法・文様の特徴	小	出土位置	備考	
41	土師質土器	壺	6.4	1.6	4.0	長石・石英・雲母 にぶい根	青白	ロクロ成形	底部回転糸切り	見込み指ナデ	石縫	覆土下層	95% PL5
42	土師質土器	壺	6.4	19	3.3	長石・石英・雲母 中色粒子	青白	ロクロ成形	底部回転糸切り			覆土中	60% PL5
44	土師質土器	壺	6.9	24	3.8	長石・石英・雲母 中色粒子	青白	ロクロ成形	底部回転糸切り			覆土中	70%
45	土師質土器	壺	7.2	1.8	4.5	長石・石英・雲母 中色粒子	青白	ロクロ成形	底部回転糸切り			覆土中	35%
46	土師質土器	壺	8.7	34	4.2	長石・石英・雲母 中色粒子	青白	ロクロ成形	底部回転糸切り	見込み指ナデ		覆土中	90% PL5
47	土師質土器	壺	9.7	29	3.9	長石・石英・雲母 鉄磁物質・赤鉄粒子	青白	ロクロ成形	底部回転糸切り	見込み指ナデ		覆土下層	90% PL5
48	土師質土器	壺	9.8	34	4.1	長石・雲母・中色 粒子	青白	ロクロ成形	底部回転糸切り	見込み指ナデ		覆土中	80% PL5
49	土師質土器	壺	10.0	28	4.5	長石・石英・雲母 中色粒子	青白	ロクロ成形	底部回転糸切り	板目状伝彫	見込み	覆土中	75%
50	土師質土器	壺	10.2	29	4.8	長石・石英・雲母 中色粒子	青白	ロクロ成形	底部回転糸切り	板目状伝彫	見込み	覆土中層	100% PL5
51	土師質土器	壺	10.4	30	4.7	長石・石英・雲母 中色粒子	青白	ロクロ成形	底部回転糸切り	板目状伝彫	見込み	覆土中	95% PL5
52	土師質土器	壺	10.4	31	4.5	長石・石英・雲母 中色粒子	青白	ロクロ成形	底部回転糸切り			覆土中	70%
53	土師質土器	壺	10.6	30	5.4	長石・石英・雲母 中色粒子	青白	ロクロ成形	底部回転糸切り	見込み指ナデ		覆土中層	100% PL4

番号	種 別	岩種	口径	厚高	底径	粒 - 粒 級	色 調	塊成	手 法 - 文 種 の 対 比 は か	出土位置	備 考
54	土師質土器	黒	10.8	29	5.3	長石・石英・漂母・ 赤色粒子	に赤い相 普通	ロクロ成形 底部回転希切り 見込み指ナデ	覆土中層	100% PL4	
55	土師質土器	黒	[10.8]	27	[4.6]	長石・石英・漂母・ 赤色粒子	に赤い相 普通	ロクロ成形 底部回転希切り 見込み指ナデ	覆土中層	30%	
56	土師質土器	黒	11.0	31	5.2	長石・石英・漂母・ 赤色粒子	に赤い相 普通	ロクロ成形 底部回転希切り	覆土中層	60% PL4	
57	土師質土器	黒	11.1	31	5.1	長石・石英・漂母・ 赤色粒子	に赤い相 普通	ロクロ成形 底部回転希切り 見込み指ナデ	覆土中層	100% PL4	
58	土師質土器	黒	11.5	34	5.9	長石・石英・漂母・ 赤色粒子	に赤い相 普通	ロクロ成形 底部回転希切り 見込み指ナデ	覆土中層	80% PL4	
59	土師質土器	黒	[11.6]	31	5.6	長石・石英・漂母・ 赤色粒子	に赤い黄相 普通	ロクロ成形 底部回転希切り 見込み指ナデ	覆土下層	20%	
60	土師質土器	黒	[11.8]	36	5.0	長石・石英・漂母・ 赤色粒子	相 普通	ロクロ成形 底部回転希切り 見込み指ナデ	覆土下層	35%	
62	土師質土器	黒	6.6	24	3.3	長石・石英・漂母 灰斑	普通	ロクロ成形 底部回転希切り 油拌付着	覆土下層	100% PL5	
63	土師質土器	黒	9.8	27	4.8	長石・漂母・赤色 粒子	に赤い相 普通	ロクロ成形 底部回転希切り 底部底面に「土」の 墨書き 見込み指ナデ	覆土下層	100% PL6	
64	土師質土器	黒	11.0	35	4.8	長石・石英・漂母・ 赤色粒子	に赤い相 普通	ロクロ成形 底部回転希切り 油拌付着	覆土下層	20%	
65	土師質土器	黒	-	(2.5)	(8.0)	長石・石英・漂母・ 赤色粒子	に赤い相 普通	ロクロ成形 底部回転希切り 検面上墨書き花模様	覆土下層	10% PL6	
66	磁器	黒	-	(1.7)	(4.6)	鈍長 網織	灰斑・灰白 良好	青磁 内外面施釉	覆土下層	5%	

番号	種 別	岩種	粒 土	色 調	手 法 の 対 比 は か	出土位置	備 考			
TP7	土師質土器	鉛錫	長石・石英・漂母	に赤い相	括り口4条1単位			覆土下層		
番号	種 別	岩種	長さ	幅	厚さ	岩 種	対 比	出土位置	備 考	
W12	木製品	曲物	(28.5)	(13.9)	1.8	広葉樹	板目 板状	覆土中層		
W13	木製品	下駄	(56.9)	(9.2)	(3.4)	広葉樹	一本造り 通幽下駄 番縫穴1ヶ所残存	覆土中層	PL9	
W14	木製品	下駄	(20.1)	(10.3)	(5.9)	広葉樹	一本造り 通幽下駄 番縫穴2ヶ所残存	覆土下層	PL9	
W15	木製品	下駄	(5.7)	(7.6)	(3.4)	広葉樹	一本造り 通幽下駄	覆土中層	PL9	
W16	木製品	枕	(48.7)	8.0	-	広葉樹	丸材 1方向からの加工を複数回	覆土上層		
W17	木製品	枕	(24.9)	5.8	4.7	広葉樹	丸材 鋸面に加工痕 3方向からの加工	覆土上層		
W18	木製品	枕	(12.6)	3.3	-	広葉樹	丸材 上端部に穿孔痕	覆土中層		
W19	木製品	板材	5.6	2.9	1.6	広葉樹	中央部に組み込みのための方形孔	覆土中層	PL9	
番号	種 別	岩種	口径	厚高	底径	重量	材質	手 法 の 対 比	出土位置	備 考
W20	漆器	黒	[10.4]	3.0	6.5	40	ブナ	内面漆津 外面墨書き 袋高台面に十字の傷	覆土下層	PL9

第2号堀跡（第14～17図）

位置 調査区I区の北部のC 6c5区、標高25.0 mの低地平坦部に位置している。

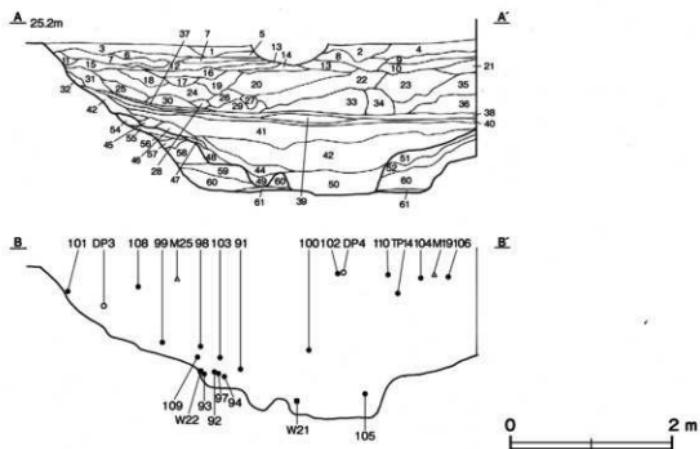
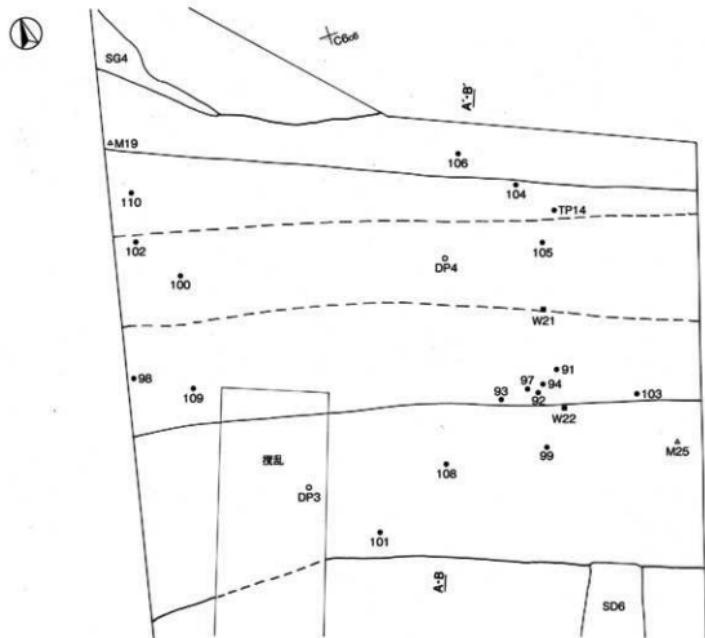
重複関係 第6号溝・第4号池に掘り込まれている。

規模と形状 両端が調査区域外に延びているため、確認できた長さは7.30 mである。C 6d6区からC 6c5区にかけて北西方向（N - 75° - W）に直線状に延びている。規模は上幅5.80 m、下幅は構築時が2.90 m、掘り直し後が約100cm、深さは180cmである。断面は台形で、壁は緩斜して立ち上がっている。

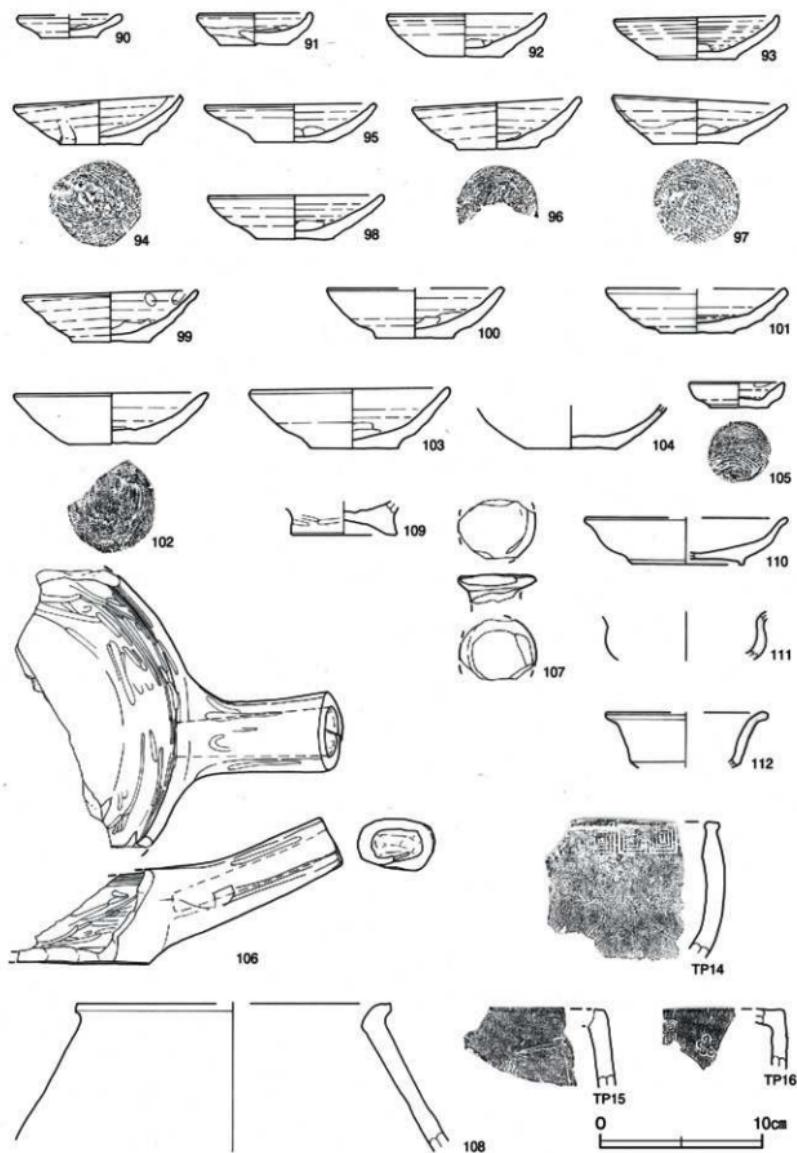
覆土 61層に分層できる。第1層から第37層までは、各層に粘土ブロックを多量に含んでいることから埋め戻されている。第38層～第61層はレンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

1	黒	褐	色	黄褐色粘土ブロック少量	14	黒	褐	色	灰白色シルトブロック極微量	
2	黒	褐	色	灰白色シルトブロック微量	15	黒	褐	色	黄褐色粘土ブロック多量（粘性強）	
3	黒	褐	色	黄褐色粘土ブロック・酸化鉄粒子微量	16	黒	褐	色	灰白色シルトブロック少量	
4	黒	褐	色	黄褐色粘土ブロック微量（弱まり強）	17	黒	褐	色	灰白色シルトブロック極微量（粘性強）	
5	黒	褐	色	黄褐色粘土ブロック多量、酸化鉄粒子微量	18	黒	褐	色	黄褐色粘土ブロック・灰白色シルトブロック少量	
6	黒	褐	色	黄褐色粘土ブロック中量	19	黒	褐	色	灰褐色粘土ブロック中量	
7	黒	褐	色	黄褐色粘土ブロック多量	20	黒	褐	色	黄褐色粘土ブロック・灰白色シルトブロック中量	
8	褐	灰	色	黄褐色粘土ブロック中量	21	黒	褐	色	黄褐色粘土ブロック中量、灰白色シルトブロック少量	
9	褐	灰	色	黄褐色粘土ブロック多量	22	黒	褐	色	灰白色シルトブロック中量、黄褐色粘土ブロック少量	
10	黒	褐	色	黄褐色粘土ブロック多量（縮まり強）	23	黒	褐	色	灰白色シルトブロック多量、黄褐色粘土ブロック少量	
11	黒	褐	色	黄褐色粘土ブロック微量						
12	黒	褐	色	黄褐色粘土ブロック極微量						
13	褐	灰	色	黄褐色粘土ブロック・灰白色シルトブロック微量						



第14図 第2号堀跡実測図

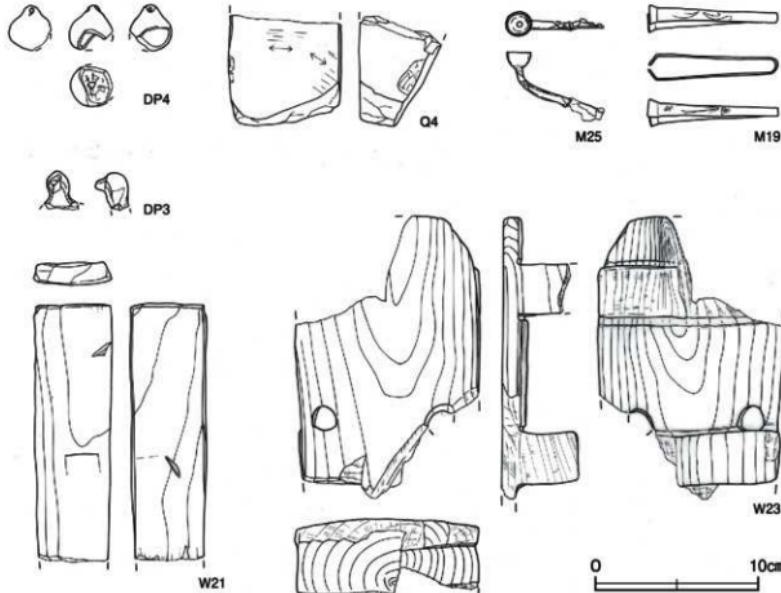


第15図 第2号墳跡出土遺物実測図(1)

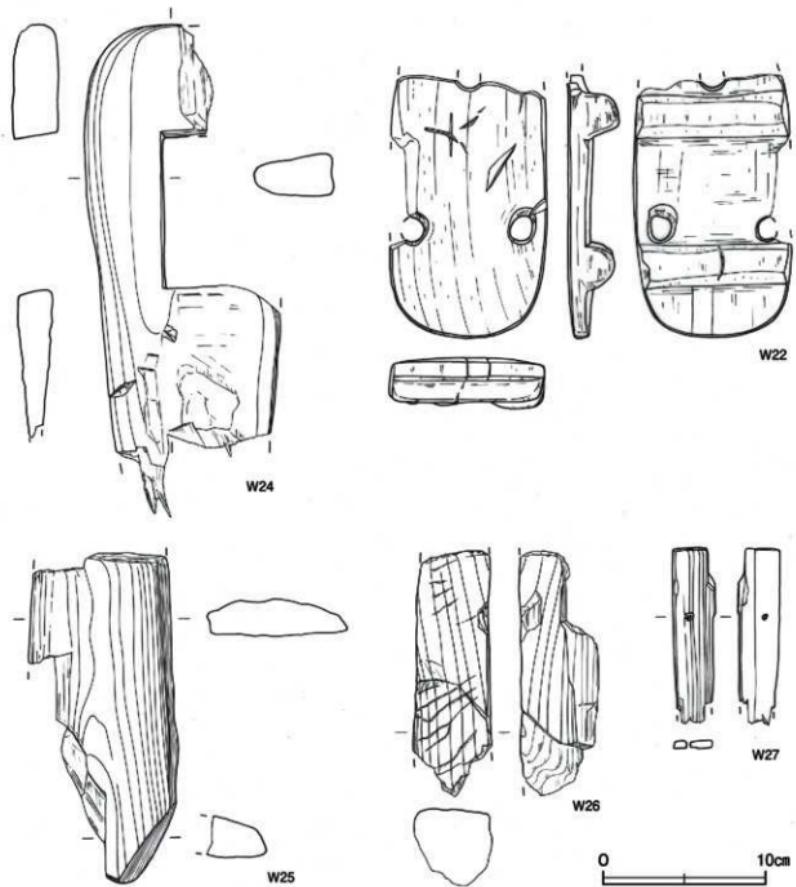
24	黒	褐	色	灰白色シルトブロック・黄褐色粘土ブロック少量	41	黒	褐	色	灰白色砂粒極微量
25	黒	褐	色	灰白色シルトブロック少量	42	黒	褐	色	灰白色細砂粒微量(縛まり強)
26	黒	色		灰白色シルトブロック極微量	44	褐	灰	色	灰白色細砂粒少量
27	黒	褐	色	灰白色シルトブロック極微量	45	黒	褐	色	灰白色細砂粒微量
28	褐	灰	色	所白色シルトブロック少量	46	黒	褐	色	所白色細砂粒少量
29	褐	灰	色	黄褐色粘土ブロック・灰白色シルトブロック少量	47	黒	色	灰白色細砂粒少量	
30	黒	褐	色	灰白色シルトブロック少量	48	黒	色	灰白色細砂粒中量	
31	黒	褐	色	灰白色シルトブロック極微量(縛まり強)	49	褐	灰	色	灰白色細砂粒中量
32	黒	褐	色	所白色シルトブロック微量	50	黒	褐	色	所白色細砂粒極微量
33	褐	灰	色	灰白色シルトブロック多量・黄褐色粘土ブロック 少量	51	黒	褐	色	所白色シルト粒子少量
					52	褐	灰	色	所白色シルト粒子中量
34	黒	色		灰白色シルトブロック極微量	54	褐	灰	色	灰白色細砂粒中量
35	黒	褐	色	所白色シルトブロック中量	55	黒	色	所白色細砂粒微量	
36	黒	褐	色	灰白色シルトブロック中量・黄褐色粘土ブロック 少量	56	黒	色	灰白色細砂粒少量	
37	黒	褐	色	木片微量、灰白色シルトブロック極微量	57	黒	褐	色	灰白色細砂粒中量
38	黒	色	草	木片中量、灰白色シルトブロック極微量	58	褐	灰	色	灰白色細砂粒多量
39	黒	褐	色	所白色砂粒中量	59	黒	褐	色	所白色細砂粒多量
40	黒	褐	色	灰白色シルトブロック極微量	60	灰	色	所色シルト粒子多量	
					61	黒	褐	色	所色シルト粒子極微量

遺物出土状況 土師質土器片 73 点(皿 49, 鍋 16, 火鉢 5, 内耳鍋 3)。瓦質土器片 12 点(鉢 1, 火鉢 10, 十能 1), 木製品 12 点(漆器 2, 下駄 2, 鍤 2, 杭 3, 曲物 1, 板材 1, 不明 1), 竹 4 点, 土製品 2 点(鉢, 鳥形), 石製品 1(砥石), 金属製品 2(毛抜き, 煙管), 自然遺物 4 点(自然木), 炭化種子 3 点(桃, 胡桃, 桧)が出土している。91・92・94・97・105・W21・W22 は東部, 93 は中央部, 109 は西部の覆土下層から, 99・103 は東部, 98・100 は西部の覆土中層, TP14, M25 は東部, 101・104・106・108・DP 4 は中央部, 102・110, M19 は西部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から 17 世紀前半以前に比定できる。



第 16 図 第 2 号堀跡出土遺物実測図 (2)



第17図 第2号堀跡・出土遺物実測図（3）

第2号堀跡出土遺物観察表（第15～17図）

番号	種別	基種	口径	器高	底径	船上・船底	色調	施成	手法・文様の特徴	出土位置	備考
90	土師質土器	直	16.0	14	3.5	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	ロクロ成形 底部回転系切り 見込み指ナデ	覆土中	40%
91	土師質土器	直	6.7	2.0	4.3	石英・半色粒子	棕	普通	ロクロ成形 底部回転系切り 見込み指ナデ	覆土下層	100% PLA
92	土師質土器	直	9.6	27	4.7	長石・石英・雲母・半色粒子	にぶい黄褐	普通	ロクロ成形 底部回転系切り 見込み指ナデ	覆土下層	95% PLA
93	土師質土器	直	9.9	27	4.7	長石・石英・小礫	にぶい黄褐	普通	ロクロ成形 底部回転系切り 見込み指ナデ	覆土下層	100% PLA
94	土師質土器	直	10.0	30	5.1	長石・石英・針状鉱物	にぶい棕	普通	ロクロ成形 底部回転系切り 見込み指ナデ	覆土下層	95% PLA
95	土師質土器	直	10.2	24	4.8	長石・石英・雲母・黒色粒子・半色粒子	にぶい棕	普通	ロクロ成形 底部回転系切り 見込み指ナデ	覆土中	90% PLA
96	土師質土器	直	10.2	33	5.0	長石・石英・雲母・半色粒子	にぶい赤褐色	普通	ロクロ成形 底部回転系切り 板目状圧痕 見込み指ナデ	覆土中	50%
97	土師質土器	直	10.4	30	5.4	長石・石英	にぶい黄褐	普通	ロクロ成形 底部回転系切り 板目状圧痕 見込み指ナデ 外面埋付着	覆土下層	100% PLA

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉・素	色調	焼成	手法・文様の特徴はか		出土位置	備考
									ロクロ成形	底部回転糸切り見込み指ナデ		
98	土師質土器	瓶	10.5	2.8	4.8	長石・石英・黒母・赤色粒子・赤色粒子	橙	普通	ロクロ成形	底部回転糸切り見込み指ナデ	覆土中層	90% PL4
99	土師質土器	瓶	10.5	3.2	4.9	長石・石英・黒母・赤色粒子・赤色粒子	橙	普通	ロクロ成形	底部回転糸切り見込み指ナデ 内面 側付着	覆土中層	80% PL4
100	土師質土器	瓶	[10.7]	3.1	4.8	長石・石英・黒母・赤色粒子・赤色粒子	橙	普通	ロクロ成形	底部回転糸切り見込み指ナデ	覆土中層	40%
101	土師質土器	瓶	[11.0]	2.7	4.6	長石・石英・黒母・赤色粒子	橙	普通	ロクロ成形	底部回転糸切り見込み指ナデ	覆土上層	10%
102	土師質土器	瓶	[11.6]	3.2	5.3	長石・石英・黒母・赤色粒子・赤色粒子	橙	普通	ロクロ成形	底部回転糸切り見込み指ナデ	覆土上層	40%
103	土師質土器	瓶	12.1	3.8	5.4	長石・石英・黒母・赤色粒子	橙	普通	ロクロ成形	底部回転糸切り見込み指ナデ	覆土中層	90% PL4
104	土師質土器	瓶	-	(2.7)	5.8	長石・石英・黒母・赤色粒子	橙	普通	ロクロ成形	底部回転糸切り見込み指ナデ	覆土上層	40%
105	土師質土器	瓶	5.7	2.1	3.6	長石・石英・黒母・赤色粒子	橙	普通	ロクロ成形	底部回転糸切り見込み指ナデ	覆土下層	95% PL5
106	瓦質土器	千能	[17.1]	9.0	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	ロクロ成形	底部回転糸切り見込み指ナデ	覆土上層	20% PL6
107	瓦質土器	火鉢	-	(1.8)	-	長石・石英・黒母	黒	普通	内面ガキ	把手部一枚粘上板で成形の字縫合	覆土中	5%
108	土師質土器	火鉢	[19.0]	(9.1)	-	長石・石英・黒母	黒	普通	ロクロ成形	底部回転糸切り見込み指ナデ整形	覆土上層	5%
109	土師質土器	火鉢	-	2.6	6.6	長石・石英・黒母	黒	普通	摩耗により調査不明		覆土下層	5%
110	陶器	瓶	[12.4]	2.9	17.0	精良 底輪	灰・灰白	良好	内外面施釉		覆土上層	透溝 20%
111	陶器	鉢	-	(3.0)	-	精良 底輪	灰白・灰黄	良好	内外面施釉		覆土中	志野 10%
112	陶器	鉢	[9.6]	(3.4)	-	精良 底輪	灰白	良好	内外面施釉		覆土中	志野 10%

番号	種別	器種	胎土		色調	手法の特徴はか		出土位置	備考
			長石	石英		ロクロ成形	底部回転糸切り		
TP14	土師質土器	火鉢	長石	石英・黒母・赤色粒子	橙	口縫跡	文	覆土上層	PL6
TP15	瓦質土器	火鉢	長石	石英	黒	ヘタ括きによる輪郭文		覆土中	PL6
TP16	瓦質土器	火鉢	長石	石英・黒母・赤色粒子	黒	畫文と梅鉢文押捺		覆土中	PL6

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP3	土人形	G2.0	G2.1	(2.1)	(5.7)	長石・石英・黒母 赤色粒子	ナデ 明赤褐色	覆土中	PL6
DP4	土鉢	G2.8	2.5	-	(G.7)	長石・石英・黒母 赤色粒子	ナデ 明赤褐色 上端に孔	覆土上層	PL6

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 4	砥石	(6.7)	G7.0	G5.1	G14.0	安山岩	砥面 1面	覆土中	PL7
M19	毛皮き	8.0	1.7	1.7	11.7	鉄	両側面凹による箇限模様	覆土上層	PL8
M25	管轄	6.0	1.5	(4.3)	G3.9	青銅	圓筒	覆土上層	PL8

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	樹種	特徴	出土位置	備考
W21	木製品	曲物	(25.9)	4.7	1.5	広葉樹	根目 外面に加工痕あり	覆土下層	
W22	木製品	下駄	(26.2)	9.5	3.1	広葉樹	一本取り 通す下駄 真縫穴 3ヶ所残存	覆土下層	PL10
W23	木製品	下駄	(27.0)	11.5	4.9	広葉樹	一本取り 通す下駄 真縫穴 2ヶ所残存	覆土中	PL10
W24	木製品	鍔矢	(30.0)	1119	2.8	コナラ	一本取り 方形の柄の差し込み口	覆土中	PL11
W25	木製品	鍔矢先	(20.6)	9.2	2.5	広葉樹	滑部加工による三角形状	覆土中	PL11
W26	木製品	杭	15.2	4.7	4.7	広葉樹	角材 横面に加工痕	覆土中	
W27	木製品	板札	(10.8)	2.6	0.5	広葉樹	一部に穿孔痕 一方から穿孔	覆土中	

表4 堀跡一覧表

番号	位置	方向	形狀	規 様			断面	覆土	主な出土物	備 考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)			
1	C 5b9-D 5c7	N-12°-E	直線上	(28.20)	(3.40)	(2.20)	123	台形	人為	土師質土器・瓦質土器・陶 器・木製品 SG5→SD8-11
2	C 6c5	N-75°-W	直線上	(7.30)	5.80	2.90 1.00	180	台形	人為	土師質土器・瓦質土器・木 製品・金屬製品 SD6→SG4・SD6

(5) 溝跡

第6号溝跡（第18図）

位置 調査区1区の東部のC 6c6区からC 6f5区にかけて、標高25.0mの低地平坦部に位置している。

重複関係 第2号次整地層の下層、第2号堀跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北東部と南西部が調査区域外に延びているため、長さは11.28mしか確認できなかった。C665区から北東方向(N-20°-E)に直線状に延び、規模は上幅0.54~0.93m、下幅0.12~0.34m、深さ28cmほどで、断面はU字状を呈している。

覆土 2層に分層できる。細縫を多く含んでいることから埋め戻されている。

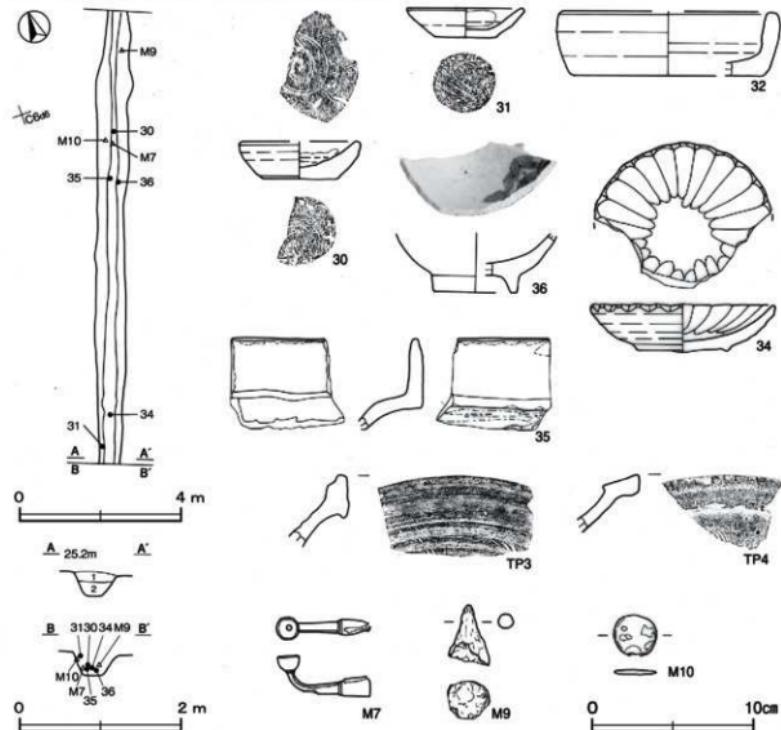
土層解説

1 黒 色 炭化粒子少量、ローム粒子極微量

2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片77点(皿47、鍋1、鉢1、火鉢28)、瓦質土器19(火鉢14、鍋5)、陶器片11点(皿1、向付1、甕1、擂鉢8)、磁器片1点(碗)、金属製品5点(煙管2、不明3)、木製品1点(板材)が出土している。35・36・M7は覆土下層、30・34・M9は覆土中層から31とM10は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から17世紀前半以降に比定できる。



第18図 第6号溝跡・出土遺物実測図

第6号溝跡出土遺物観察表(第18図)

番号	種別	形種	口径	深さ	底形	地・土・釉・素	色調	焼成	手法・文様の特徴	小	出土位置	備考
30	土師質土器	皿	17.4	23	4.3	長石・石英・陶母 粒子	にぶい黄褐色	普通	クロロ成形 底部削り	板口状圧痕	内部焼 付	覆土中層 50%
31	土師質土器	皿	7.1	18	3.9	長石・石英・陶母 粒子	にぶい褐	普通	クロロ成形 底部削り	板口状圧痕	漆擦付 着	覆土上層 PL5

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法・文様の特徴ほか	出土位置	備考
32	土師質土器	鉢	[13.0]	4.0	[11.0]	長石・石英・斜方 鉱物・砂粒	にぶい橙	普通	ロクロ成形	覆土中	10%
33	陶器	皿	[11.1]	2.9	5.5	精良 長石釉	灰白	良好	チテによる23番の花弁口縁部へラ切りによる藝術	覆土中	志野 50%
35	陶器	向付	-	(5.6)	-	精良 鋼・絞釉	淡青・ 緑青・ 黄褐色	良好	折り曲げ部内外面に釉溜まり	覆土下層	職部 5%
36	磁器	碗	-	(3.7)	15.0	精良 長石釉	青白	良好	内面墨書き	覆土下層	20%

番号	種別	器種	胎土・釉薬	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP3	陶器	盆鉢	長石・石英・黒色粒子・ 鉄	灰白・赤褐	挂り口4条1単位	覆土中	瓶口・美 濃人形頭 鏡頭
TP4	陶器	盆鉢	長石・石英・黒色粒子・ 鉄	暗赤褐	挂り口欠損により2条のみ	覆土中	濃塗房形

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M7	鐵管	57	14	-	5.5	鉄・銅	覆青 油汎しは大きく渦曲	覆土下層	PLB
M9	不明	38	26	23	24.0	鉄	内面彫り本来は空洞 石突	覆土中層	
M10	不明	26	25	0.2	(8.6)	鉄	円形 白鉛	覆土上層	

第7号溝跡（第19・43図）

位置 調査区I区の北西部のC 6d5区、標高24.7mの低地平坦部に位置している。

重複関係 第4号池跡と第2号堀跡を掘り込んでいる。

規模と形状 西部は搅乱により長さ4.90mしか確認できなかった。東方向（N-5°-E）に直線状に延びた後、C 6d5区の北東寄りで北方向（N-74°-E）にくの字状に延びている。規模は上幅0.30~0.58m、下幅0.10~0.38m、深さ10cmほどで、断面はU字状を呈している。

覆土 単一層である。粘土ブロックを多量に含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 級 灰 黄褐色粘土ブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片14点（皿10、鍋4）、瓦質土器片2点（火鉢）、陶器片2点（擂鉢）が出土している。TP5は、覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から17世紀前半以降に比定できる。

第7号溝跡出土遺物観察表（第19図）

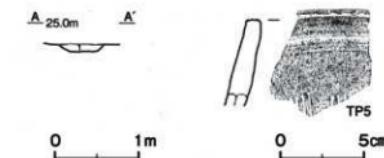
番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP5	陶器	盆鉢	長石・石英	褐	挂り口4条1単位	覆土中	丹波

第8号溝跡（第20・43図）

位置 調査区II区の北部のD 5d7区、標高24.9mの低地平坦部に位置している。

重複関係 第1次整地層を掘り込んでいる。

規模と形状 北東部と南西部が調査区域外に延びているため、長さ3.13mしか確認できなかった。D5d7区から北西方向（N-65°-W）に直線状に延びている。規模は上幅0.38~0.93m、下幅0.26cm~0.81m、深さ8cmほどで、断面はU字状を呈している。

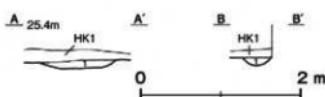


第19図 第7号溝跡・出土遺物実測図

覆土 単一層である。細縫を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説
1 黒 褐 色 酸化鉄中量、砂粒少量

所見 時期は、出土遺物はないが第1次整地層を掘り込んでいることから、17世紀前半以降に比定できる。



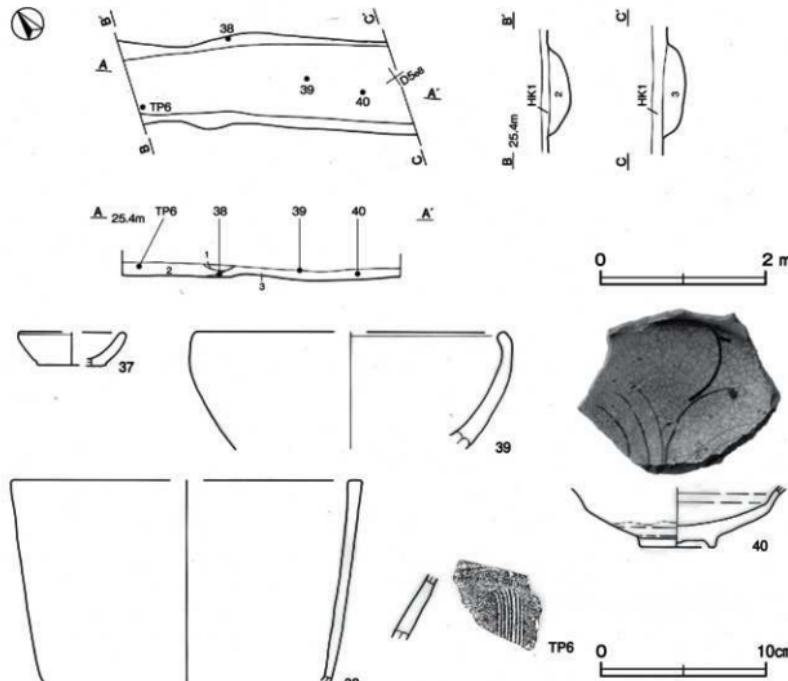
第20図 第8号溝跡実測図

第11号溝跡（第21図）

位置 調査区II区の南側のD 5 d7区、標高24.8mの低地平坦部に位置している。

重複関係 第1次整地層を掘り込んでいる。

規模と形状 北西部と南東部が調査区域外に延びていることから長さ3.30mしか確認できなかった。D5e8区から北西方向（N - 56° - W）に直線状に延び、規模は上幅0.91～1.14m、下幅0.70～0.92m、深さ25cmほどで、断面はU字状を呈している。



第21図 第11号溝跡・出土遺物実測図

覆土 3層に分層できる。粘土ブロック中量含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1	灰	色	砂粒中量
2	灰	色	砂多量、粘土ブロック中量

3	暗	灰	色	砂粒少量
---	---	---	---	------

遺物出土状況 土師質土器片8点(皿), 瓦質土器片2点(甕, 火鉢), 瓯11点が出土している。38は北西壁際中央部の底面, 40は南西部の覆土中層から, 39は中央部, TP6は北西エリア際の覆土上層, 37は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 第1次整地層を掘り込んでいることや出土土器から17世紀前半以降に比定できる。

表11号溝跡出土遺物観察表(第21図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎・釉・表面	色調	焼成	手法・文様の特徴ほか	出土位置	備考
37	土師質土器	皿	直径	20	14.2	長石・石英・漂母・赤色粒子	にふい・粗	普通	クロコ成形 脊部回転切刃	覆土中	20%
38	瓦質土器	甕	12.2	12.0	-	長石・石英・漂母・赤色粒子	黄灰	普通	クロコ成形	覆土中	10%
39	瓦質土器	火鉢	[18.8]	(7.1)	-	長石・石英・漂母	にふい・黄白	普通	無文	覆土上層	5%
40	陶器	両付	-	3.7	4.5	粗良 鉄錆	にふい・赤褐色・黒灰	良好	足込み草文 高台周辺無釉	覆土中層	断津 30%
TP6	陶器	深鉢	赤色粒子	灰白	深口4条1位					出土位置	備考

表5 溝跡一覧表

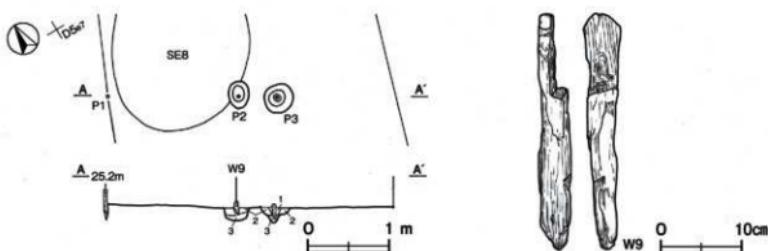
番号	位置	方向	形状	規 模			断面	覆土	底面	主な出土遺物	備 考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)					
6	C6e6 ~ C6f5	N-20°-E	直線状	(11.28)	0.54~0.93	0.12~0.34	28	U字状	人為	平坦 土師質土器・瓦質土器・甕 陶器・金属製品・木製品	新旧関係(古→新) 第2号溝跡→本跡 陶器・金屬製品・木製品 HK2
7	C6d5	N-74°-E N-5°-E	くの字状	(4.90)	0.30~0.58	0.09~0.38	10	U字状	人為	平坦 土師質土器・瓦質土器 陶器	SG4・第2号溝跡→本跡→HK2
8	D5d7	N-65°-W	直線状	(3.13)	0.38~0.60	0.26~0.81	8	U字状	人為	平坦	本跡→HK1
11	D5d7	N-56°-W	直線状	(3.30)	0.91~1.14	0.70~0.92	25	U字状	人為	平坦 土師質土器・瓦質土器	本跡→HK1

(6) 杭列跡

第4号杭列跡(第22図)

位置 調査区II区の南側のD-5e7区, 標高24.7mの低地平坦部に位置している。

重複関係 第8号井戸跡を掘り込んでいる。



第22図 第4号杭列・出土遺物実測図

規模と形状 P1は、調査エリア壁際に杭のみが確認できた。P2は長径35cm、短径25cmの楕円形、P3は直径34cmの円形である。深さは16~20cmで、3本の軸はN~60°~Wである。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。細礫を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 細礫少量、鉄分微量
- 2 黒褐色 細礫少量、鉄分微量

3 灰褐色 鉄分中量、炭化粒子少量

遺物出土状況 木製品3点(杭)が出土している。W9はP2から立位の状態で出土している。

所見 時期は、重複関係と確認できた層位から17世紀前半以降に比定できる。

第4号杭跡出土遺物観察表(第22図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	側種	特徴	出土位置	備考
W9	木材	柱	(29.0)	45	4.1	広葉樹	土壤部 細孔の切り込み加工	P2	

(7) ピット群

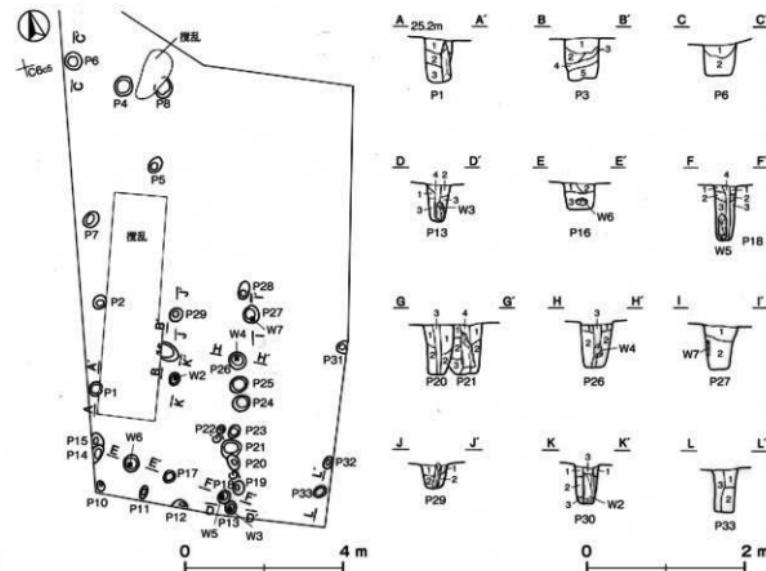
第5号ピット群(第23~25図)

位置 調査区I区のC6c5区~C6f6区にかけての東西7m、南北13mの範囲からピット32か所を確認した。

重複関係 第2次整地層、第4号跡跡を掘り込んでいる。

規模と形状 平面形は長径18~57cm、短径16~51cmの円形あるいは楕円形で、深さは20~83cmである。

覆土 それぞれのピットの覆土は、粘土ブロックが混じっていることから埋め戻されている。



第23図 第5号ピット群実測図

P 1 土層解説

- 1 黒 灰 色 灰白色粘土ブロック・砂粒中量
 2 黒 灰 色 粘土ブロック多量、砂粒少量
 3 黒 灰 色 粘土ブロック多量

P 2 土層解説

- 1 黒 灰 色 にぶい黄褐色粘土ブロック中量
 2 黒 灰 色 灰白色粘土ブロック少量
 3 黑 灰 色 砂粒中量、粘土ブロック微量
 4 黑 灰 色 砂粒少量

P 3 土層解説

- 1 黒 灰 色 灰白色砂粒少量
 2 黑 灰 色 灰白色砂粒微量

P 13 土層解説

- 1 黒 灰 色 黄褐色粘土ブロック・細縫微量
 2 黑 灰 色 黄褐色粘土ブロック多量
 3 黑 灰 色 黄褐色粘土ブロック少量
 4 黑 灰 色 砂粒少量

P 16 土層解説

- 1 黒 灰 色 灰白色砂粒少量
 2 黑 灰 色 黄褐色粘土ブロック少量
 3 黑 灰 色 黄褐色粘土ブロック微量

P 18 土層解説

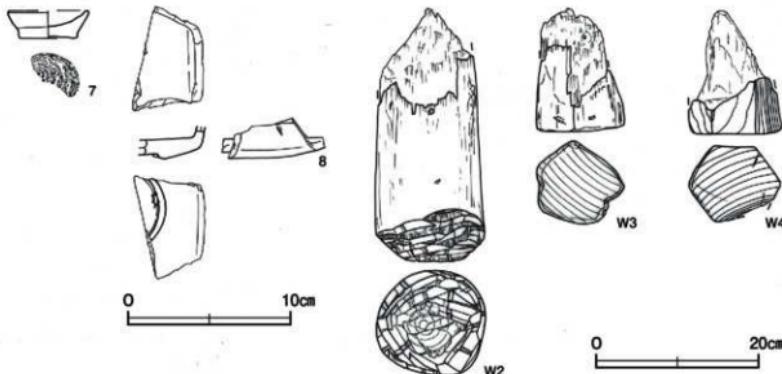
- 1 黒 灰 色 黄褐色粘土ブロック中量
 2 黑 灰 色 黄褐色粘土ブロック微量
 3 黑 灰 色 黄褐色粘土ブロック少量
 4 黑 灰 色 砂粒微量

P 20 土層解説

- 1 黒 灰 色 黄褐色粘土ブロック中量
 2 黑 灰 色 黄褐色粘土ブロック少量
 3 黑 灰 色 腐食木片

遺物出土状況 土師質土器片 14 点 (皿), 瓦質土器片 4 点 (火鉢 1, 鍋 3), 木製品 10 点 (杭 4, 柱材 6), 炭化種子 3 点 (桃), 磚 2 点 (安山岩) が出土している。7 は P4, 8 は P5 の覆土中から, W2 は P30, W3 は P13, W4 は P26, W5 は P18, W6 は P16, W7 は P27 から立位の状態で出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から 17 世紀前半以降に比定できる。



第 24 図 第 5 号ピット群出土遺物実測図 (1)

P 21 土層解説

- 1 黒 灰 色 砂粒中量、黄褐色粘土ブロック少量
 2 黒 灰 色 黄褐色粘土ブロック中量
 3 黒 灰 色 黄褐色粘土ブロック少量
 4 黑 灰 色 腐食木片

P 26 土層解説

- 1 黑 灰 色 黄褐色粘土ブロック微量
 2 黑 灰 色 黄褐色粘土ブロック微量
 3 黑 灰 色 腐食木片

P 27 土層解説

- 1 黑 灰 色 黄褐色粘土ブロック微量
 2 黑 灰 色 腐食木片

P 29 土層解説

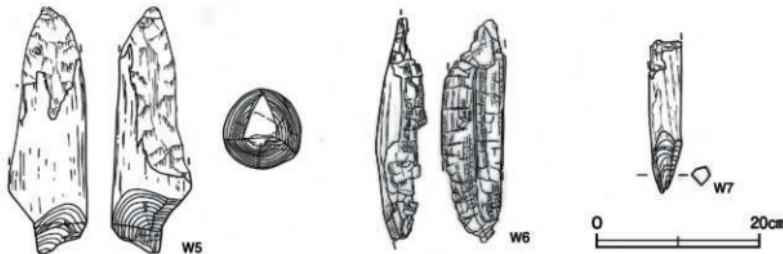
- 1 黑 灰 色 黄褐色粘土ブロック微量
 2 黑 灰 色 黄褐色粘土ブロック微量

P 30 土層解説

- 1 黑 灰 色 砂粒中量、粘土ブロック・鉄分微量
 2 黑 灰 色 粘土ブロック少量、鉄分微量
 3 黑 灰 色 粘土ブロック中量

P 33 土層解説

- 1 黑 灰 色 黄褐色粘土ブロック微量
 2 黑 灰 色 黄褐色粘土ブロック中量
 3 黑 灰 色 黑褐色砂粒微量



第25図 第5号ピット群出土遺物実測図(2)

第5号ピット群出土遺物観察表(第24・25図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	地土・粘土	色調	塊成	手法・文様の特徴ほか	出土位置	備考
7	土師質土器	鉢	[4.8]	1.7	[3.6]	真石・石葉・漂浮・半色粒子	に赤い褐色	普通	クロア形或葉部斜軸系切り	P4 覆土中	40%
8	陶器	鉢	-	2.6	-	精良	灰褐色	底白	良好 内面施釉 外面に鉄鉱の一部が残存	P5 覆土中	志野 10%

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	材種	特徴	出土位置	備考
W2	木材	柱	[31.4]	13.5	-	広葉樹	丸柱 底面は多方向からの削り加工	P20	
W3	木材	柱	[15.2]	10.8	10.2	広葉樹	芯をはずした削り出し 五角柱 底面は平坦	P13	
W4	木材	柱	[15.2]	11.4	9.4	広葉樹	芯をはずした削り出し 六角柱 底面は平坦	P26	
W5	木材	柱	[30.5]	6.9	6.9	広葉樹	丸柱 底面は三方向からの削り加工	P18	
W6	木材	柱	[27.3]	7.8	6.3	広葉樹	丸柱+一部焼化	P16	
W7	木材	枕	[18.8]	4.0	-	広葉樹	五方向からの加工	P27	

表6 第5号ピット群計測表

ピット番号	位置	形状	規 模(cm)			ピット番号	位置	形状	規 模(cm)			
			長軸(径) × 短軸(径)	深さ	長軸(径) × 短軸(径)				長軸(径) × 短軸(径)	深さ	長軸(径) × 短軸(径)	
1	C6e4	[円形]	36 × 35	54	18	C6e5	円形	32 × 30	70	23	C6e5	楕円形
2	C6d5	楕円形	32 × 29	44	19	C6e5	楕円形	34 × 30	70	24	C6e5	円形
3	C6d5	楕円形	55 × 43	51	20	C6e5	楕円形	38 × 29	65	25	C6e5	円形
4	C6e5	楕円形	57 × 51	45	21	C6e5	楕円形	50 × 40	66	22	C6e5	楕円形
5	C6e5	楕円形	41 × 33	83	22	C6e5	楕円形	18 × 16	17	23	C6e5	楕円形
6	C6e5	楕円形	44 × 39	40	23	C6e5	楕円形	35 × 30	22	24	C6e5	円形
7	C6e5	楕円形	41 × 34	40	24	C6e5	円形	41 × 40	32	25	C6e5	円形
8	C6e5	[円・楕円形]	45 × 32	20	25	C6e5	円形	44 × 41	49	26	C6e5	円形
10	C6e4	楕円形	23 × 17	49	26	C6e5	円形	46 × 44	56	27	C6d5	円形
11	C6e4	楕円形	35 × 19	29	27	C6d5	円形	43 × 40	54	28	C6d5	楕円形
12	C6e5	[円・楕円形]	38 × 20	42	28	C6d5	楕円形	40 × 27	48	29	C6d5	円形
13	C6d5	円形	31 × 31	46	29	C6d5	円形	35 × 32	31	30	C6e5	楕円形
14	C6e4	[円形]	32 × 33	53	30	C6e5	楕円形	33 × 27	46	31	C6e6	[楕円形]
15	C6e4	[円・楕円形]	32 × 26	50	31	C6e6	[楕円形]	31 × 26	24	32	C6e6	楕円形
16	C6e4	円形	41 × 40	32	32	C6e6	楕円形	30 × 25	40	33	C6d5	楕円形
17	C6e5	楕円形	31 × 27	25	33	C6d5	楕円形	35 × 31	55			

第6号ピット群（第26図）

位置 調査区II区北側C 5a8区からD 5a9区にかけての東西4m、南北9mの範囲からピット8か所を確認した。

重複関係 第1号堀跡を掘り込んでいる。

規模と形状 平面形は長径20~43cm、短径19~35cmの円形あるいは梢円形で、深さは17~64cmである。

覆土 それぞれのピットの覆土は、細・中繩が混じっていることから埋め戻されている。

P 1 土層解説

- 1 暗灰褐色 砂粒中量、粘土ブロック・鉄分微量
- 2 暗灰褐色 粘土ブロック少量、鉄分微量
- 3 暗灰褐色 粘土ブロック中量

P 5 土層解説

- 1 黒褐色 色細繩少量、黄褐色粘土ブロック微量
- 2 黒褐色 黄褐色粘土ブロック少量、中繩微量
- 3 黒褐色 砂粒少量、中繩微量
- 4 黒褐色 中繩・砂粒少量

P 2・3 土層解説

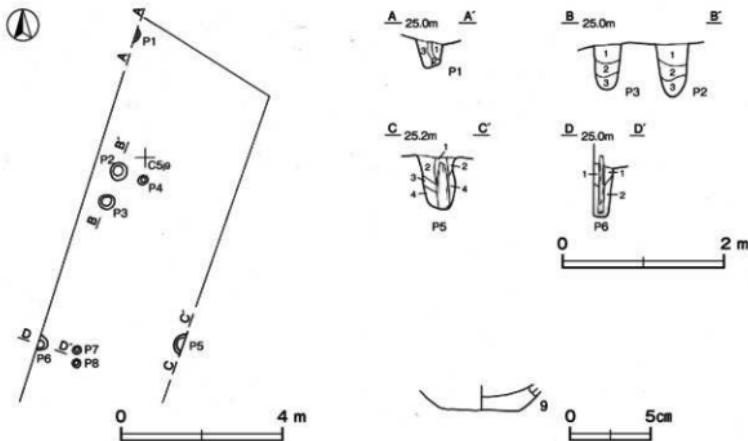
- 1 黒褐色 ロームブロック中量、砂粒・鉄分少量、炭化物微量
- 2 黒褐色 細繩微量
- 3 黄灰色 黄灰色粘土ブロック少量

P 6 土層解説

- 1 黒褐色 砂粒少量、炭化材・細繩微量
- 2 黒褐色 細繩少量

遺物出土状況 土師質土器片1点(皿)、木製品7点(杭)が出土している。9は、P3の覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から17世紀前半以降に比定できる。



第26図 第6号ピット群・出土遺物実測図

第6号ピット群出土遺物観察表（第26図）

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土・施釉	色調	焼成	手法・文様の特徴	小	出土位置	備考
9	土師質土器	皿	-	(16)	4.8	瓦片・石英・黒滑・半包粒子	暗	普通	ロクロ成形		P3 覆土中	50%

表7 第6号ピット群計測表

ピット番号	位置	形状	規 横(cm)			ピット番号	位置	形状	規 横(cm)		
			長軸(径) × 短軸(径)	深さ	長軸(径) × 短軸(径)				長軸(径) × 短軸(径)	深さ	
1	C5a8	〔円形〕	(35) × (10)	32	5	D5a9	〔梢円形〕	(28) × (12)	64		
2	C5a8	梢円形	43 × 35	65	6	D5a8	〔梢円形〕	35 × (25)	64		
3	C5a8	円形	36 × 35	55	7	D5a8	梢円形	23 × 19	19		
4	C5a8	円形	23 × 23	60	8	D5a8	円形	20 × 20	17		

第7・8号ピット群 (第27・28図)

位置 調査区Ⅱ区南側のD 5d7区からD 5f7区にかけての東西5m、南北8mの範囲からピット21か所を確認した。

重複関係 第8号井戸跡を掘り込み、第31号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第7号ピット群の平面形は長径20cm~54cm、短径17cm~45cmの円形あるいは椭円形で、深さは10~57cmである。第8号ピット群の平面形は長径20cm~60cm、短径20cm~24cmの円形あるいは椭円形で、深さは10~56cmである。

覆土 それぞれのピットの覆土は細・中疊が混じっていることから埋め戻されている。

第7号ピット群土層解説

P 1 土層解説

- 1 黒褐色 鉄分微量

P 2 土層解説

- 1 黄褐色 ロームブロック中量、青灰色粘土ブロック少量、中疊微量

- 2 黄褐色 青灰色粘土ブロック・中疊少量

P 3・8 土層解説

- 1 黄褐色 鉄分・砂質粘土中量

- 2 黄褐色 砂利多量

P 9・10 土層解説

- 1 黄オーライブ色 鉄分・砂質粘土中量

- 2 黄オーライブ色 砂利多量

第8号ピット群土層解説

P 1・2・3 土層解説

- 1 黒褐色 鉄分・細繊少量

- 2 黒褐色 酸化鉄ブロック多量、細繊微量

- 3 黑褐色 酸化鉄ブロック多量、細繊少量

P 11~14・16・17 土層解説

- 1 オリーブ型色 砂質粘土少量

- 2 オリーブ型色 砂質粘土微量

- 3 灰オーライブ色 砂質粘土少量

- 4 銀オーライブ色 砂質粘土微量

- 5 灰オーライブ色 鉄分多量

P 15 土層解説

- 1 灰褐色 色 砂利多量、粘土ブロック少量

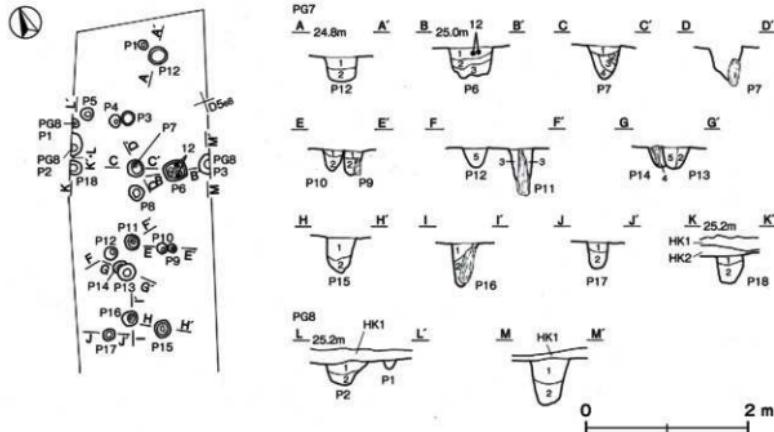
- 2 灰褐色 砂利多量

- 3 灰オーライブ色 砂少量

P 18 土層解説

- 1 白褐色 酸化鉄粒子中量、細繊少量

- 2 黑褐色 細繊少量、酸化鉄粒子微量

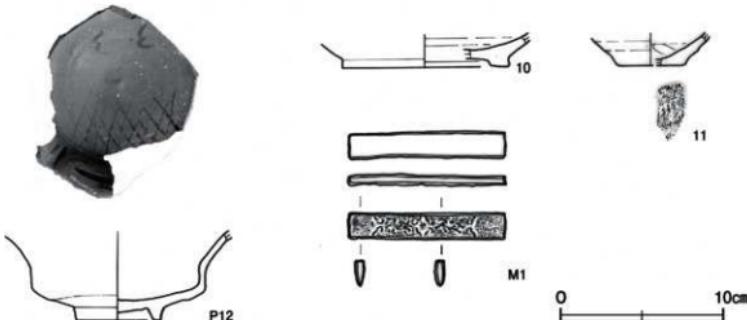


第27図 第7・8号ピット群実測図

遺物出土状況 第7号ピット群からは、土器質土器片3点(皿2、高台付碗1)、木製品3点(杭)、金属製品1点(小柄)、瓦片1点(平瓦)、疊1点(泥岩)が出土している。10はP5、11はP4の覆土中、12はP6、

M 1 は P2 のそれぞれ覆土上層から出土している。第 8 号ビット群からは、遺物は出土していない。

所見 時期は、第 7 号ビット群が重複関係と出土土器から 17 世紀前半以降、第 8 号ビット群は確認できた層位から 17 世紀前半以降に比定できる。



第 28 図 第 7・8 号ビット群出土遺物実測図

第 7 号ビット群出土遺物観察表（第 28 図）

番号	種別	器種	口径	深さ	底質	底土・軸・基	色調	焼成	手法・文様の特徴ほか	出土位置	備考
10	土師質土器	高台貼付	-	(2.0)	[10.0]	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	ロクロ或彩 脊部回転糸切り後高台貼り付け	P5 覆土中	39%
11	土師質土器	直	-	(2.1)	[14.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐色	普通	ロクロ或彩 脊部回転糸切り	P4 覆土中	20%
12	陶器	円付	-	(5.5)	5.2	粘土質 灰釉	灰褐色	良好	内面凸縫部染付 底面磨削文・3字横様 高台周辺無釉	P6 覆土上層	唐津 30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	小柄	9.7	1.6	0.4	(21.5)	鉄・銅	一枚板による成形 片面貼り付け組ぎの進行により支柱不明	P2 覆土上層	P1.8

表 8 第 7 号ビット群計測表

ビット番号	位置	形状	規 模(cm)			ビット番号	位置	形状	規 模(cm)			
			長軸(径) × 短軸(径)	深さ	長軸(径) × 短軸(径)				長軸(径) × 短軸(径)	深さ	長軸(径) × 短軸(径)	
1	D5d7	精円形	24	×	17	25	10	D5e7	円形	26	×	25
2	D5d7	円形	43	×	42	30	11	D5e7	精円形	35	×	30
3	D5d7	〔円形〕	30	×	28	13	12	D5e7	円形	30	×	28
4	D5d7	円形	26	×	24	10	13	D5e7	〔円形〕	40	×	37
5	D5d7	円形	28	×	26	12	14	D5e7	〔精円形〕	30	×	[12]
6	D5e7	精円形	54	×	45	33	15	D5f7	精円形	40	×	37
7	D5e7	円形	39	×	37	42	16	D5f7	精円形	36	×	30
8	D5e7	〔円形〕	36	×	35	18	17	D5f6	円形	27	×	25
9	D5e7	精円形	20	×	17	29	18	D5d7	〔円形〕	(28)	×	28

表 9 第 8 号ビット群計測表

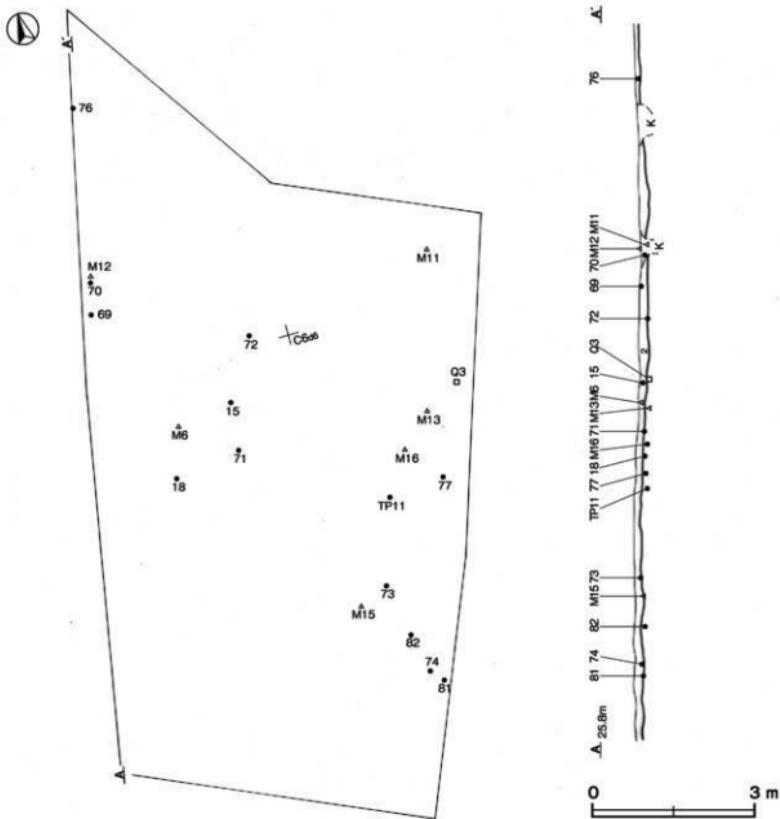
ビット番号	位置	形状	規 模(cm)			ビット番号	位置	形状	規 模(cm)			
			長軸(径) × 短軸(径)	深さ	長軸(径) × 短軸(径)				長軸(径) × 短軸(径)	深さ	長軸(径) × 短軸(径)	
1	D5d7	〔精円形〕	20	×	(18)	10	3	D5e7	〔精円形〕	48	×	(24)
2	D5d7	〔精円形〕	60	×	(24)	26						

2 その他の遺構と遺物

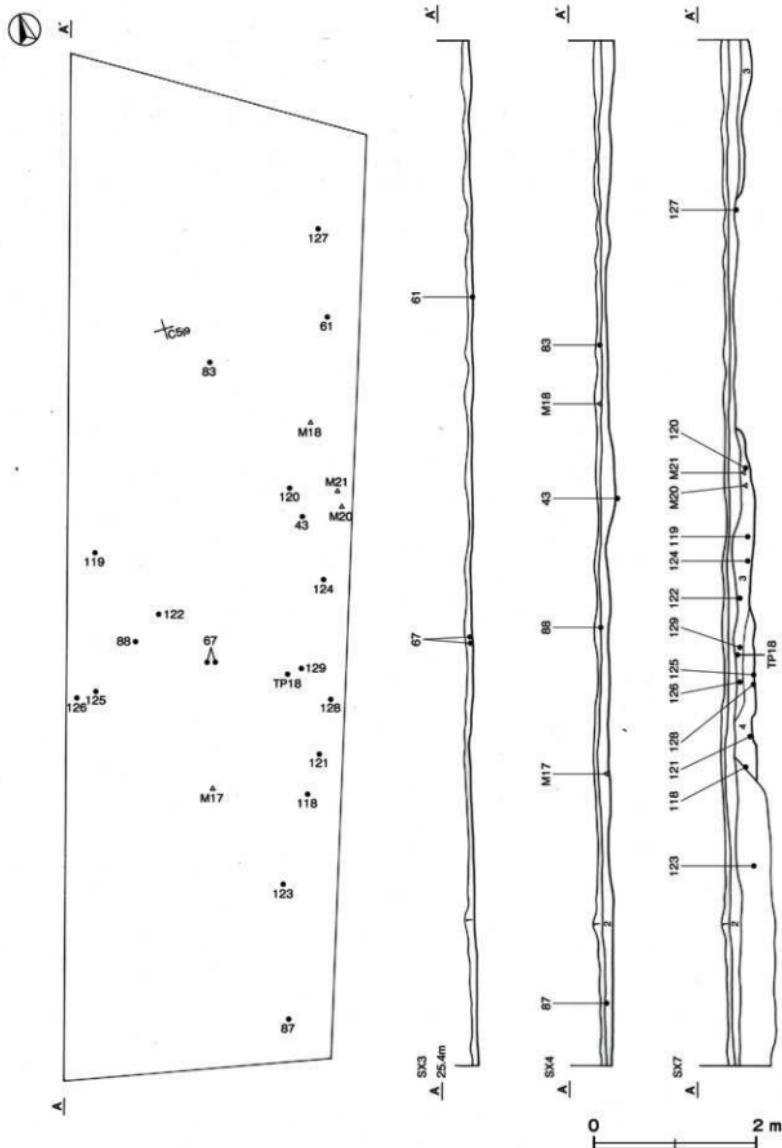
整地層3層、不明遺構1か所を確認した。整地層は調査時に確認できた順に遺構番号をつけている。以下、遺構の特徴について記述する。

(1) 整地層

調査区I・II区のはば全域で確認できた。土層断面で確認できた整地層は3層で、標高25.1～24.9mが第1次整地層、標高24.9～24.8mが第2次整地層である。第3次整地層は、土層断面の一部のみで確認できたため範囲は明確ではなく、部分的に整地されたものと推測できる。出土している土器からそれぞれの明確な時期差は見いだせない。以下、遺構と出土した遺物について記載する。



第29図 I区第2次整地層土層断面・遺物出土状況図



第30図 II区第1・2・3次整地層土層断面・遺物出土状況図

第1次整地層(第29・30・31図)

範囲 調査区II区北側の全域と、南側の北東部で確認できた。

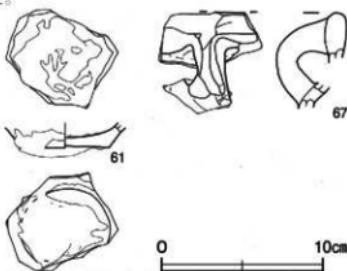
埋土 単一層で、層厚は5~10cmである。

土層解説

1 埋 地 色 ロームブロック少量、黒色土ブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片2点(皿、内耳鍋)、陶器片1点(擂鉢)が混入して出土している。61はII区北側の北部、67はII区北側の中央部東寄りからそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から17世紀前半以降に比定できる。



第31図 第1次整地層出土遺物実測図

第1次整地層出土遺物観察表(第31図)

番号	種 别	器種	口径	器高	底径	胎 土・釉 庫	色 調	焼成	手 法・文 種 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
61	土師質土器	皿	-	(1.6)	5.4	長石・石英	暗灰黄	普通	ロクロ成形 底部回転系切り 内外面鉄滓付着	II区北部	10%
67	土師質土器	内耳鍋	-	(6.3)	-	長石・石英・斜長石 粘土・黑色粒子	黒褐	普通	耳部ヘラ削り	II区中央部	5%

第2次整地層(第29・30・32~34図)

範囲 調査区I区とII区北部の全域、II区南側の北東部で確認できた。

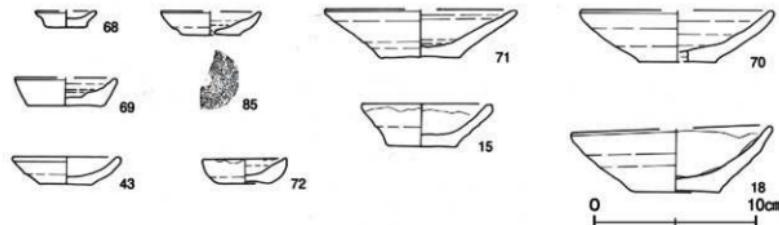
埋土 単一層(第2層)で、層厚は5~10cmである。平坦に均されている。

土層解説

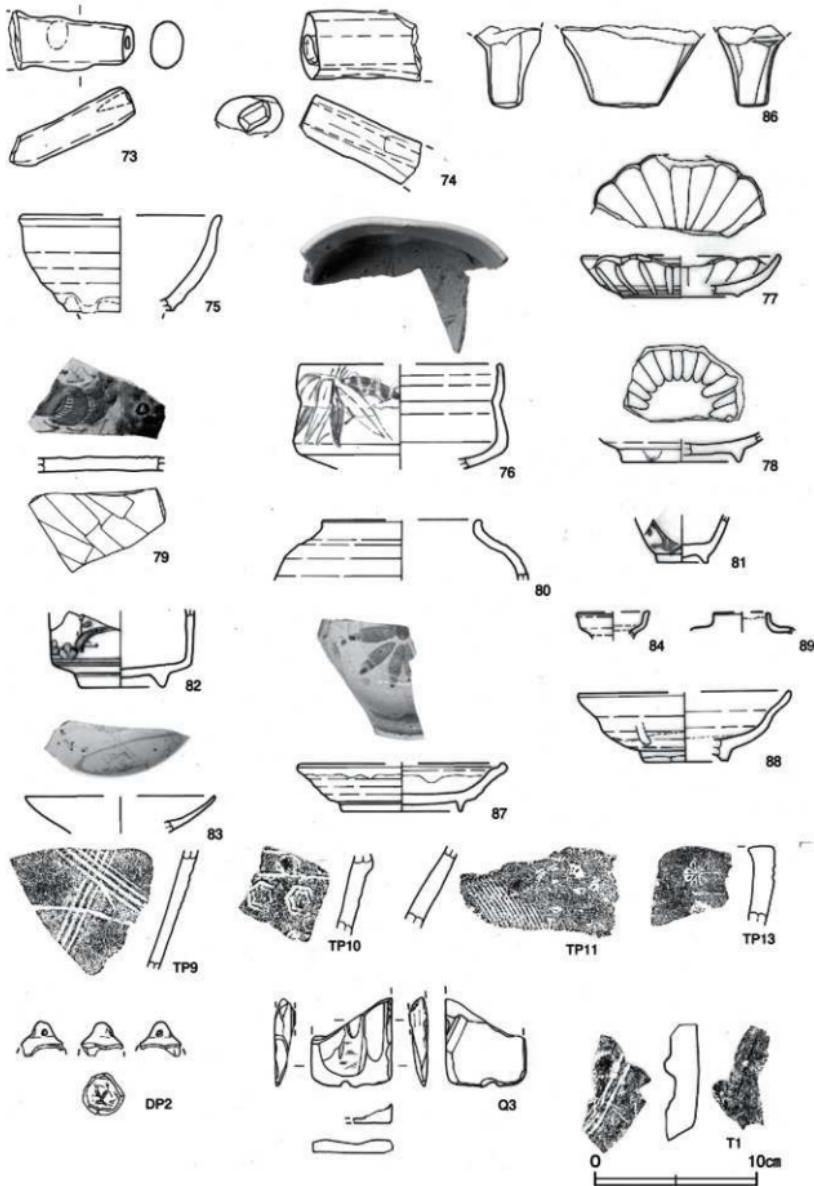
2 埋 地 色 ロームブロック少量、黒色土ブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片578点(皿404、甕4、鉢2、鍋類121、擂鉢39、火鉢6、十能2)、瓦質土器片48点(鍋23、鉢1、火鉢23、擂鉢1)、陶器片30点(鉢12、碗2、皿3、向付2、壺1、茶入1、擂鉢8、火鉢1)、磁器片4点(杯、碗、皿、德利)、土製品2点(鉢)、瓦片2点(軒先瓦、平瓦)、石製品1点(硯)、金属製品11点(錢貨5、煙管3、鐵滓1、不明2)、木製品2点(丸材)、織3点(水晶片2、不明1)、炭化種子1点(桃)、繩文土器片1点(深鉢)が混入して出土している。I区からは74・81・82が南部、71・77は中央部、M11は北部東寄り、M12は北部西寄り、16・Q3・M13は中央部の東寄り、69・70・76は北部の西寄り、73・TP11は中央部東寄りからそれぞれ出土している。II区からは87が南部、43・88は中央部、M17は南部、83・M18は北部からそれぞれ出土している。

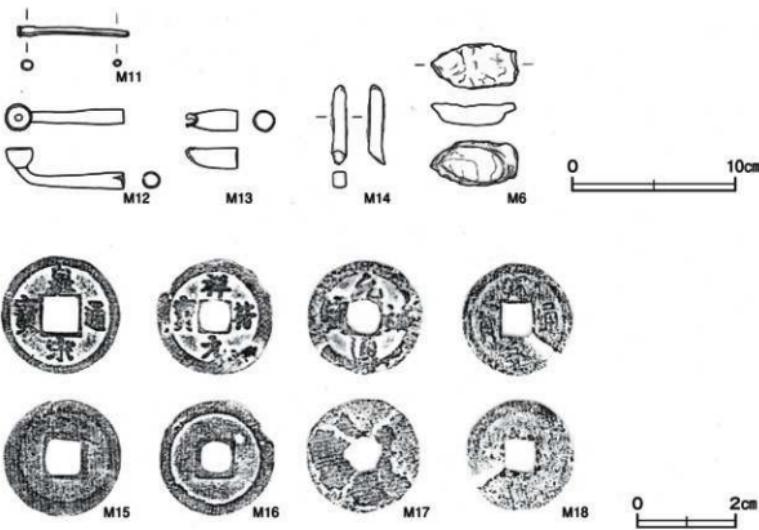
所見 時期は、出土土器から17世紀前半以降に比定できる。



第32図 第2次整地層出土遺物実測図(1)



第33図 第2次整地層出土遺物実測図（2）



第34図 第2次整地層出土遺物実測図（3）

第2次整地層出土遺物観察表（第32～34）

番号	種別	器種	口径	算高	底径	胎・土・釉・表面	色調	施成	手法・文様の特徴	は小	出土位置	備考
15	土師質土器	瓶	7.9	2.7	4.2	長石・石英・雲母 赤色粒子	にぶい・相 黒褐色	クロコ成形 底部回転糸切り	油煙付着	覆土中	70% PL.5	
18	土師質土器	瓶	[12.2]	4.2	5.3	石英	普通	クロコ成形 底部回転糸切り	油煙付着	覆土中	60%	
43	土師質土器	瓶	6.5	1.7	3.4	長石・石英・雲母 赤色粒子	浅黄	普通	クロコ成形 底部回転糸切り	覆土中	70% PL.4	
68	土師質土器	瓶	[3.7]	1.0	2.5	長石・石英・雲母 赤色粒子	にぶい・黄褐 赤色粒子	普通	クロコ成形 底部回転糸切り	1区	50% PL.4	
69	土師質土器	瓶	[6.2]	1.7	[5.2]	長石・石英・雲母 赤色粒子	にぶい・黄褐 赤色粒子	普通	クロコ成形 底部回転糸切り	1区	50%	
70	土師質土器	瓶	[11.5]	3.2	4.7	長石・石英・雲母 赤色粒子・絞栓	にぶい・黄褐 黒褐色	クロコ成形 底部回転糸切り	1区	50%		
71	土師質土器	瓶	[11.8]	3.0	5.0	長石・雲母・赤色 粒子	にぶい・黄褐 赤色	普通	クロコ成形 底部回転糸切り	1区	30%	
72	土師質土器	瓶	5.1	1.5	3.3	長石・石英・小礫	にぶい・相 黒褐色	クロコ成形 底部回転糸切り	口縁部油煙付着	覆土中	100% PL.5	
73	土師質土器	千両	-	(4.6)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	把手 ナゾ成形 運び孔	1区	PL.6	
74	土師質土器	千両	-	(5.4)	-	長石・石英	にぶい・相	普通	把手 一枚の黏土板による成形	1区	90%	
75	陶器	天目茶碗	[11.8]	(5.7)	-	精良 灰釉	高台付近滋潤まり	高台露頂盛	陶片	天目茶碗 大毫3% 全野端8% 30% PL.7		
76	陶器	志野茶碗	[12.1]	(6.3)	-	精良 灰釉	にぶい・黒褐色 にぶい・相	良好	外面墨文繩	1区	志野	
77	陶器	菊皿	[11.8]	2.5	17mm	精良 灰釉	灰白	良好	ナゾによる器の花弁残存 口縁部二つ切りによる彫刻	1区	志野	
78	陶器	菊皿	-	(1.7)	17mm	精良 灰釉	灰白	普通	ナゾによる13瓣の花弁残存 二次焼成	II区北部	志野 20%	
79	陶器	向付カ	φ5.3	(5.0)	0.8	精良 灰釉	灰白	良好	内面糊付け 底面削	覆土中	10%	
80	陶器	壺	[9.2]	(3.6)	-	精良 灰釉	暗灰褐色	灰	良好 クロコ成形 外面部施粘	覆土中	唐津 5%	
81	陶器	杯	-	(2.9)	3.0	精良	灰白	良好	外面部草花の染付	1区	10%	
82	陶器	碗	-	(4.7)	5.0	精良	明瞭灰 灰白	良好	外面部梅花文の染付	1区	40%	
83	陶器	皿	[11.4]	(2.2)	-	精良	灰白	良好	内面染付	II区北部	30%	
84	陶器	唐利	[4.2]	(1.6)	-	精良 緑釉	淡黄 緑絞	良好	クロコ成形	II区北部	近畿部5%	
85	土師質土器	瓶	6.0	1.5	3.6	長石・石英・雲母	暗灰黃	普通	クロコ成形 底部回転糸切り後穿孔	灯明	覆土中	40%
86	瓦質土器	大鉢	-	(4.9)	-	長石・石英	灰	普通	御部ナゾ彫刻	覆土中	5%	
87	陶器	皿	[12.1]	2.9	17mm	精良 灰釉	灰白・黄褐	良好 クロコ成形 外面部施粘	内面花文	II区北部	志野 20%	
88	陶器	丼付	[12.6]	4.2	5.0	精良 鉄釉	にぶい・黄褐 黒褐色	良好	内面糊付け 高台露頂無	II区北部	唐津 20%	
89	陶器	茶入	[3.0]	(1.2)	-	精良 鉄釉	灰白・黑	良好	内面口部まで施粘 外面部施粘	覆土中	瀬戸・美濃 5% PL.5	

番号	種別	器種	胎土	色調	手法・文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP9	土師質土器	鉢	長石・石英・針状水晶	に赤い斑、 に赤い黄鐵	外面4条1単位のハケ状工具による格子文	覆土中	
TP10	土師質土器	大鉢	長石・石英・雲母・赤色 粒子	に赤い黄鐵	六角支撑脚	覆土中	
TP11	陶器	鉢	石英・小釋	灰白・中灰	模り目8条1単位	I区	
TP13	瓦質土器	火鉢	長石・石英・雲母	黒	八瓣花文押捺	覆土中	PL6

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP2	土鉢	G21	G26	G26	45.8	長石・石英・雲母・ 赤色地紅土	ナデ に赤い斑 上端に孔	覆土中	PL6

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q3	鏡	65.6	49	1.1	285.9	粘板岩	墨縁一部残存 砥石に転用	I区	PL7
M9	鏡背	54	28	1.4	43.0	鉄	碗状底面崩れの進行	覆土中	PL8
M11	縦管	68	0.7	0.4	3.2	青銅	吸口一枚板による成形	I区	PL8
M12	縦管	72	1.6	1.0	10.4	青銅	雁首	I区	PL8
M13	縦管	G32	G3.0	-	4.59	青銅	雁首火受け部欠損	I区	PL8
M14	不明鉢類	G48	0.9	0.9	0.7	鉄	打目	覆土中	

番号	銘種	年	孔幅	厚さ	重量	材質	初跨年	特徴	出土位置	備考
M15	皇宋通寶	24	07	0.1	17	銅	1038	北宋銭 無背銘	覆土中	PL8
M16	祥符元寶	24	06	0.1	19	銅	1009	北宋銭 無背銘	覆土中	PL8
M17	元祐通寶	24	06	0.1	17	銅	1086	北宋銭 無背銘	II区北部	PL8
M18	寛永通寶	23	06	0.1	19	銅	1656	無背銘	II区北部	PL8

番号	種別	年	厚さ	重量	胎土	焼成	特徴	出土位置	備考
T1	軽瓦	G.1	G26	G26	長石・石英・雲母	普通	珠文線三巴文	覆土中	PL6

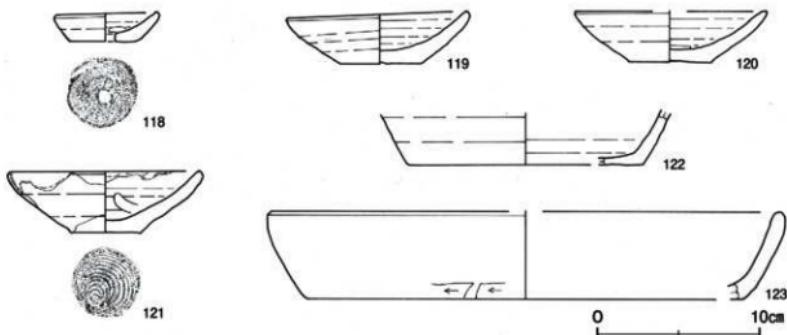
第3次整地層（第30・35・36図）

範囲 調査区II区北側の北西壁際の土層セクションで確認できた。範囲は明確ではない。

埋土 2層に分層できる（第3・4層）。層厚は6cm～26cmである。

土層解説

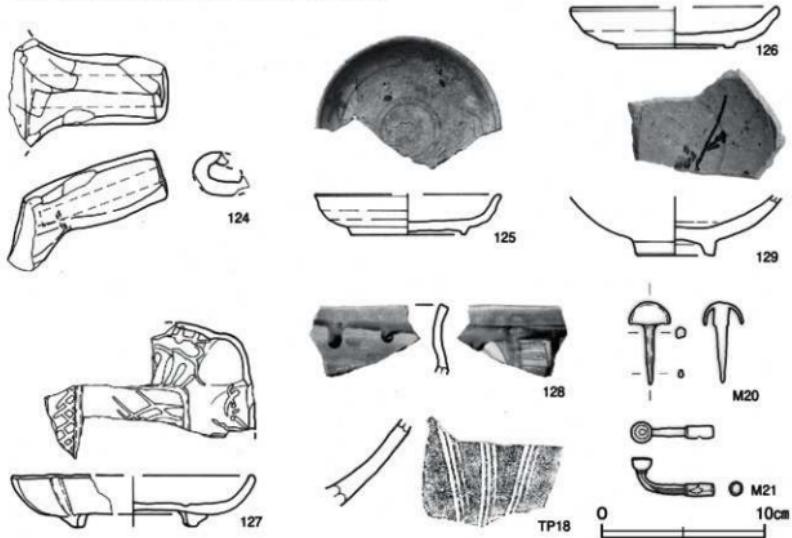
3 黒褐色 酸化鉄・中纏・砂粒少量、粘土ブロック微量 4 黑褐色 酸化鉄ブロック・炭化物少量、纏織・砂粒微量



第35図 第3次整地層出土遺物実測図（1）

遺物出土状況 土師質土器片 14 点（皿 10, 鉢 1, 火鉢 1, 捣鉢 1, 壺類 2,), 瓦質土器片 5 点（焙烙鍋 1, 火鉢 3, 十能 1), 陶器片 6 点（皿 3, 鉢 2, 捣鉢 1), 環 1 点が混入して出土している。120・121・125・128 は中央部の下層, 118・119・124・M20・M21 は中央部の中層, 122・126・127・129・TP18 は上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 17 世紀前半以降に比定できる。整地層が第 9 号溝跡の上面に広がっていることから、同遺構を埋め戻した際の整地層と考えられる。



第 36 図 第 3 次整地層出土遺物実測図 (2)

第 3 次整地層出土遺物観察表 (第 35・36 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法・文 標 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
118	土師質土器	皿	6.1	1.8	4.1	長石・石英・雲母	灰黃褐色	普通	ロクロ成形 底部回転系切り 底部直徑 8mm の穿孔	覆土中層	95% PL4
119	土師質土器	皿	11.0	3.2	5.1	長石・石英・雲母	に赤い黄緑	普通	ロクロ成形 底部回転系切り	覆土中層	90% PL4
120	土師質土器	皿	[11.8]	3.1	5.1	長石・石英・雲母	に赤い橙	普通	ロクロ成形 底部回転系切り 見込み模ナデ	覆土下層	40%
121	土師質土器	皿	11.6	4.8	4.2	長石・石英・雲母	に赤い黄緑	普通	ロクロ成形 底部回転系切り □縁部修理付着	覆土下層	80% PL5
122	土師質土器	皿	-	(3.4)	(14.6)	長石・石英・赤色 粒状	に赤い橙	普通	ロクロ成形	覆土中	5%
123	瓦質土器	焙烙鍋	[31.2]	5.4	[27.0]	長石・石英・雲母 赤色粒子	灰黃褐色 黒褐色	普通	底部回転系切り	覆土中	10%
124	瓦質土器	十能	-	(7.5)	-	長石・石英・赤色 粒物	灰黃	普通	把手 一枚の粘土板による成形	覆土中層	10% PL6
125	陶器	皿	[11.2]	2.5	6.8	鈍良 灰釉	灰白	普通	内面施釉	覆土下層	40%
126	陶器	皿	[32.7]	2.5	[7.0]	鈍良 灰釉	灰白	良好	内面施釉	覆土上層	30%
127	陶器	方形皿	[34.8]	3.1	[7.0]	鈍良 灰釉	灰白	良好	内面釉のきかおとしによる草花文  1 本残る	覆土上層	ねずみ毛井 20%
128	陶器	鉢	-	4.2	-	鈍良 灰釉	灰白	普通	外縁絞付け文様不明	覆土下層	馬鹿藏部 3%
129	陶器	鉢	-	(4.8)	4.8	鈍良 灰釉	灰白	良好	外縁施釉 高台周邊無釉	覆土上層	10%

番号	種 別	器種	胎 土	色 調	手 法・文 標 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
TP18	土師質土器	灰鉢	長石・石英・赤色粒子	灰褐色 に赤い塊	掘り口 3 条 1 単位	覆土上層	

番号	形 種	長さ	幅	厚さ	重 量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
M20	丸鉢	5.0	2.4	-	23.0	鉄	先端部円形 滲穴	覆土中層	PL8
M21	縦管	5.1	1.5	0.7	3.3	青銅	縦貫 一枚板で成形	覆土中層	PL8

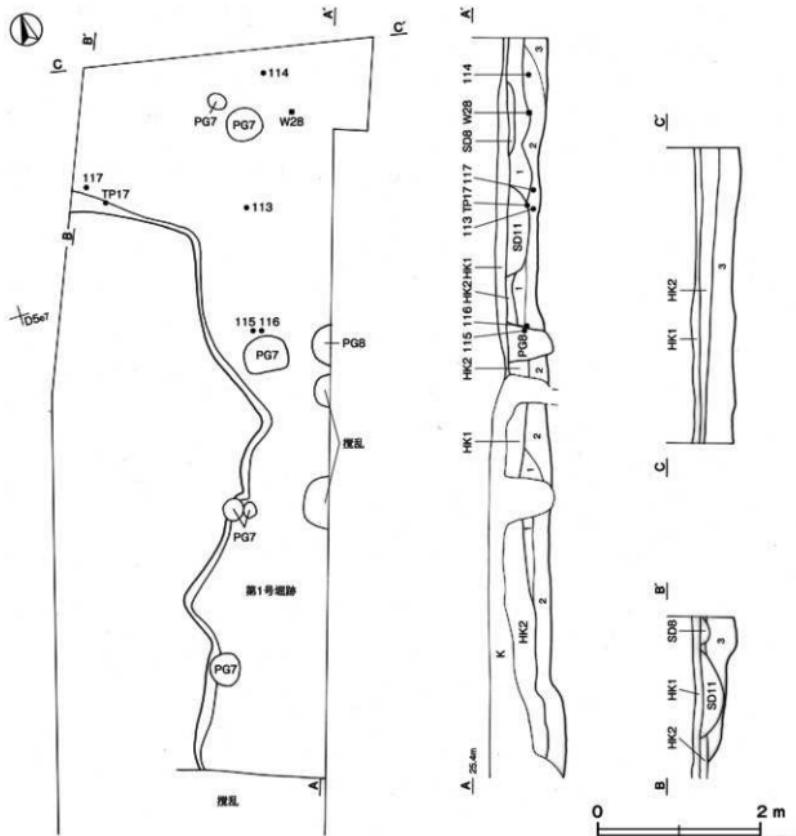
(2) 不明遺構

第6号不明遺構（第37・38図）

位置 調査区II区の南側 D 5d7区～D 5f7区、24.5mの低地平坦部に位置している。

重複関係 第1号堀跡を掘り込み、第8・11号溝、第7・8号ピット群、第31号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東部が調査区域外に延び、南西部は搅乱によって壊されているため、南北軸9m、東西軸3.2mしか確認できなかった。平面形はL字状で、深さは20～30cmで、緩斜して立ち上がっている。



第37図 第6号不明遺構実測図

覆土 3層に分層できる。粘土ブロックを多量に含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

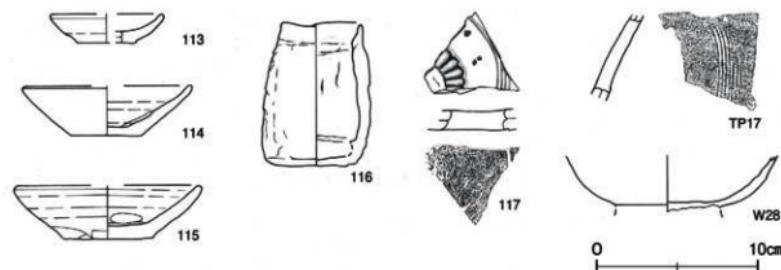
- 1 灰オーブン色 灰色粘土ブロック・鉄分多量。砂中量
2 灰 色 青灰粘土ブロック多量。鉄分中量

3 黒 橙 色 ロームブロック少量。炭化物微量。焼土粒子極微量

遺物出土状況 土師質土器片6点(皿4、火鉢1、焼塙壺1)、瓦質土器片3点(火鉢)、陶器1点(擂鉢)

木製品3点(漆器1、杭2)が出土している。113・114・117・TP17・W28は北部の覆土上層、115・116は中央部の覆土中層から散在した状態でそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から17世紀前半以前に比定できる。



第38図 第6号不明遺構出土遺物実測図

第6号不明遺構出土遺物観察表 (第38図)

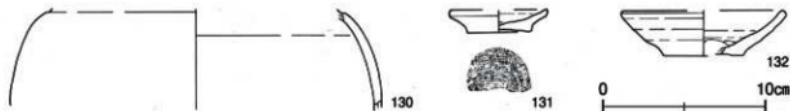
番号	種 別	器種	口径	厚高	底径	胎 土 - 粘 土	色 調	後成	手 法・文様の特徴	は か	出土位置	備 考
113	土師質土器	皿	10.0	1.8	13.0	長石・石英・漂母・半透粒子	にふい程	普通	クロ成形 底部回転系切り		覆土上層	40%
114	土師質土器	皿	[10.4]	2.6	[14.4]	長石・石英・漂母・半透粒子	にふい程	普通	クロ成形 底部回転系切り	見込み指ナシ	覆土上層	35%
115	土師質土器	皿	[11.2]	3.3	5.3	長石・石英・漂母・半透粒子	にふい程	普通	クロ成形 底部回転系切り	見込み指ナシ	覆土中層	50%
116	土師質土器	焼塙壺	4.9	9.0	5.4	長石・石英・漂母・粒子	にふい程	普通	内面研磨み痕 外面削離		覆土中層	30% PL.6

番号	種 別	器種	胎 土	色 調	手 法・文様の特徴	は か	出土位置	備 考
117	陶器	鉢	精良 灰釉	灰白	内面4条一単位の円文・菊紋 底部回転ヘラ切り		覆土上層	廻り美濃
TP17	陶器	鉢	赤色粒子 - 黑色粒子	浅黄橙	描り目6条1単位 鉄鉢		覆土上層	

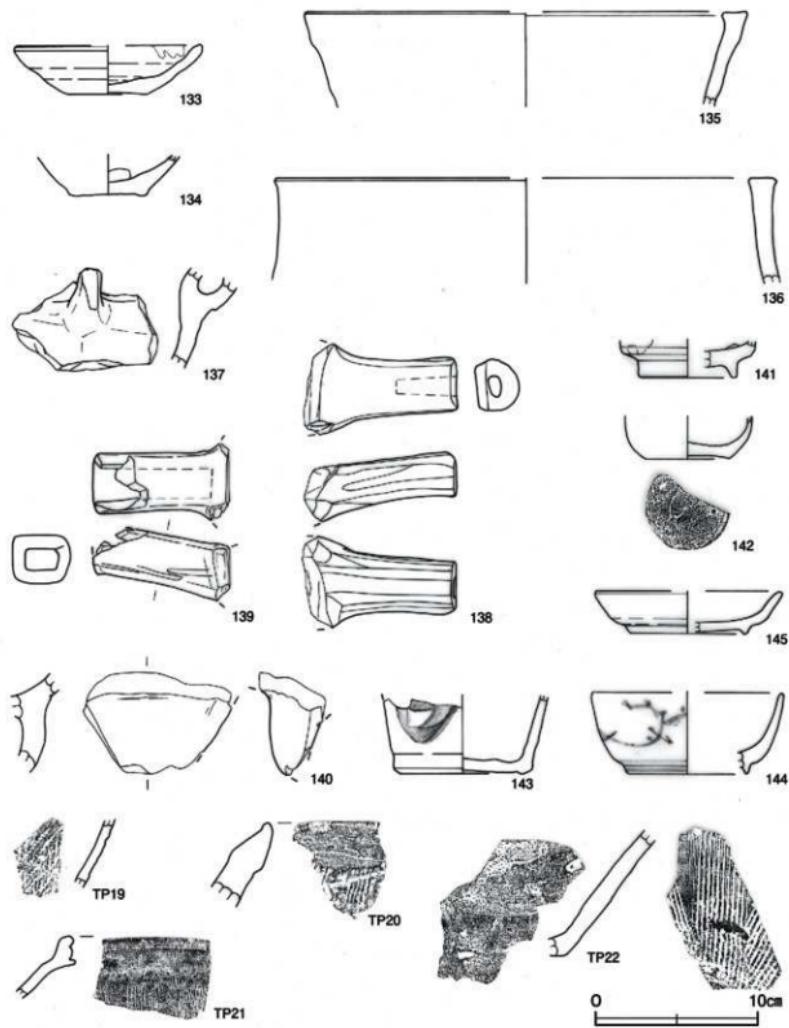
番号	種 別	器種	口径	厚高	底径	重量	材質	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
W28	漆器	鉢	-	(3.2)	-	-	ヅナ	外内黒漆	覆土上層	PL.9

(3) 遺構外出土遺物

遺構に伴わない主な遺物について、特徴的なものを実測図および観察表で掲載する。



第39図 遺構外出土遺物実測図 (1)



第40図 遺構外出土遺物実測図（2）



第41図 遺構外出土遺物実測図（3）

遺構外出土遺物観察表（39～41図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法・文様の特徴ほか	出土位置	備考
130	土師器	甕	-	(6.2)	-	良石・石英・雲母 赤色粒子	黒	普通	内面摩耗のため調整不明	表土	5%
131	土師質土器	甕	14.0	1.4	3.9	良石・石英・雲母 赤色粒子	にぶい黒	普通	クロア成形 底部回転糸切り	表土	50%
132	土師質土器	甕	14.8	2.8	4.4	良石・石英・雲母 赤色粒子子・鉢紋	にぶい黒	普通	クロア成形 底部回転糸切り 見込み指ナデ	表土	20%
133	土師質土器	甕	[11.0]	3.0	4.0	良石・石英・雲母 鉢状無地	にぶい黒	普通	クロア成形 底部回転糸切り 口縁部沿埋付着	表土	30%
134	土師質土器	甕	-	(2.6)	4.4	良石・石英・雲母 赤色粒子	にぶい黒	普通	クロア成形 見込み指ナデ	表土	30%
135	土師質土器	火鉢	[27.4]	[5.8]	-	良石・石英・雲母 赤色粒子	にぶい黒	普通	外面埋付着	表土	5%
136	土師質土器	火鉢	[31.2]	6.5	-	良石・石英・雲母 赤色粒子	灰黄褐	普通	無文	表土	5%
137	瓦質土器	内耳瓶	-	(6.3)	-	良石・石英	黒	普通	耳部ナデ	表土	5%
138	瓦質土器	十進	-	(4.2)	-	良石・石英・雲母 赤色粒子	にぶい黒	普通	把手一枚の粘土板による底部 下面ケズリ	表土	5% PL6
139	瓦質土器	十進	-	(4.3)	-	良石・石英	黒	普通	把手一枚の粘土板による成形	表土	5% PL6
140	瓦質土器	火鉢	-	(6.3)	-	良石・石英・雲母	黒	普通	ナデ成形	表土	5%
141	陶器	瓶	-	(2.4)	16.0	粗良・灰釉	淡黄・オーバーライム	良好	内外面施釉 高台付無孔	表土	10%
142	陶器	瓶	-	(2.7)	5.2	粗良・灰釉	灰白・灰漆	良好	把手一枚の粘土板による底部 外面文字の鉄鉢	表土	10%
143	磁器	唐利	-	(4.9)	8.7	粗良	灰白	良好	外表面花文の染付	表土	10%
144	磁器	瓶	[11.6]	5.0	17.0	粗良	灰白	良好	外表面花文の染付	表土	20%
145	陶器	瓶	[11.4]	(2.6)	(7.2)	粗良・灰釉	灰青・灰白	良好	内面施釉	表土	30%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法・文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP19	陶土器	甕	良石・石英・雲母	にぶい黒	脚部外縫加条2種隠文施	表土	
TP20	瓦質土器	便盆	良石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	塗り口5条1単位	表土	
TP21	陶器	便盆	良石・石英・雲母	黒	塗り口7条1単位	表土	
TP22	陶器	便盆	良石・石英・雲母・赤色粒子	暗赤褐	塗り口13条1単位	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP5	土人形	0.86	0.41	0.6	(14.1)	良石・石英・雲母・赤色粒子	ナデにぶい黒 胸部粘土削り落し	表土	PL6

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q5	不明石製品	32	21	1.0	16.2	チャートカ	四面面取り	表土	PL7
Q6	不明石製品	24	18	0.7	5.6	チャートカ	四面面取り	表土	PL7
M22	煙管	72	16	-	5.6	青銅	吸い口一枚板で成形	表土	PL8
M23	煙管	(5.6)	(0.9)	-	0.9	青銅	雁首 火受け部欠損 元板受け八角形	表土	PL8
M24	仁丹入	35	35	0.7	7.9	青銅	外面浮かし字 捻じ組み合せ	表土	PL8

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	重量	色 調	手 法・文 種 の 対 比 は か	出土位置	備 考
G1	ガラス製品	ビン	4.5	4.3	4.9	805	青	底部社名浮かし字 ガラス内部に気泡多数	表土	

第4節 ま と め

今回の調査によって、中・近世の井戸跡1基、池跡2か所、土坑6基、堀跡2条、溝跡4条、杭列跡1か所、ピット群4か所を確認した。今回の調査区は、平成16年度の調査区から南西約30mに位置するところで、絵図面によると武家屋敷が所在していた地点である。

1 遺構について

今回、確認できた遺構について、その性格などについて若干の考察をくわえたい。

(1) 井戸跡

絵図によると武家屋敷内の一辺に位置していることから、武家屋敷に伴う井戸と考えられる。

(2) 池跡

不整規円形の池跡を2か所確認した。第4号池跡は、区画溝と考えられる第6号溝跡の内側に位置していることから、武家屋敷の園池と考えられる。第5号池跡も16年度調査区の南側にあたり、絵図によると武家屋敷の一辺に位置することから、屋敷に伴う園池と考えられる。

(3) 堀跡

調査I区の北部とII区にかけて確認できた。I区の第2号堀跡は、幅7.9mで深さは1.8mである。II区の第1号堀跡は調査区域間にかかっているため全様は明らかではないが、1.2mと深い。この堀跡は正保年間に描かれた「宍戸城下絵図」には記載がなく、それ以前の堀と考えられる。また、本跡はI区の西側に位置する平成16年度調査区からは確認されておらず、第2号堀跡は、第1号溝跡と深さや断面形状が類似していることから、西側に延びたのち現行の道に沿ってL字状に屈曲しているものと推測される（第42図参照）。

(4) 溝跡

溝は4条確認しており、いずれも掘り込みは浅く、断面はU字状を呈している。第6号溝跡は、前回の調査で確認できた第4号溝跡と並行しており、方向が同じであることや、同時期の遺物が出土していることから、武家屋敷が整備された17世紀前半頃の段階において両溝が共存しながら何らかの区画として機能したものと推測される。

第8号溝跡は、第1号溝跡と方向が同一である。前回の調査では、第1号溝跡は宍戸城下絵図に記された道路跡と方向が一致し、道路に付設された側溝を想定しており、第8号溝跡も同じ性格のものと考えられる。また、本跡と並走する第11号溝跡も方向が若干ずれているものの、17世紀前半に整地されたと考えられる第2次整地層の下層から確認できたことから、それ以前に機能していた側溝跡の可能性がある。第7号溝跡は、第4号溝跡に向かって延びていることから、池に流れ込む導水路の可能性が高い。

(5) ピット群

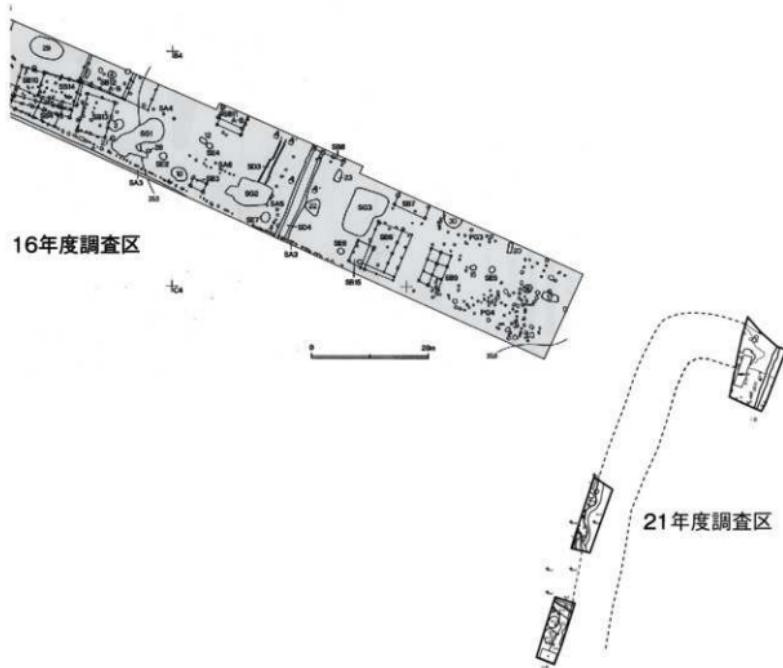
第5・7・8号ピット群は区画溝と考えられる第6号溝跡の内側に位置していることや、平成16年度調査において、第2号池跡から出土した六角柱材と同じ形状の柱材が第5号ピット群から出土していることから、武家屋敷の何らかの建物の可能性がある。しかし、柱間寸法がまちまちであり、柱筋が通

らないため明確なことは言えない。

(6) 整地層

調査区Ⅰ・Ⅱ区に広がって確認できた整地層は、埋土中に多数の土師質・瓦質土器や陶磁器片が混入している。第1・2次整地層は調査区全体で確認でき、第3次整地層は中世の堀と考えられる第1号堀跡を埋めもどすような形で確認できた。第1・2次整地層は出土する陶磁器片などから城下町整備の際、もしくは1645年の秋田氏の国替え後に水田化されたときの整地層と考えられる。

Ⓐ



第42図 第1・2号堀跡想定図

2 出土遺物について

(1) 土器・陶磁器

土師質土器は、皿・鍋・擂鉢・火鉢などを中心に出土しており、そのほとんどが土師質の皿である。皿の寸法は、大・小の2種類があり、口径が5.1cm～7.1cm、7.9cm～12.0cm、底径が3.3cm～4.0cm、4.2cm～5.9cm、器高が1.5cm～4.8cmを測り、見込み部に強いナデをもつものが多く見られる。その多くは第1・2号堀の覆土中層から下層にかけて大量に出土しており、使われた土器などを一括投棄した可能性がある。第2号堀は、埋め戻しされており、埋め戻し時に一緒にこれらの土器を廃棄した可能性がある。

今回確認できた陶磁器の多くは城下町整備の際、もしくは1645年の秋田氏の国替え後に水田化された時のものと考えられる整地層から出土したものである。これらの産地は、瀬戸・美濃・唐津で、志野が全体の約半数を占めている（表10参照）。また、天目茶碗のほか茶入なども出土していることから、第256集のまとめでも触れているように当時の武家社会では、茶道が盛行であったことを裏付けているものと考えられる。

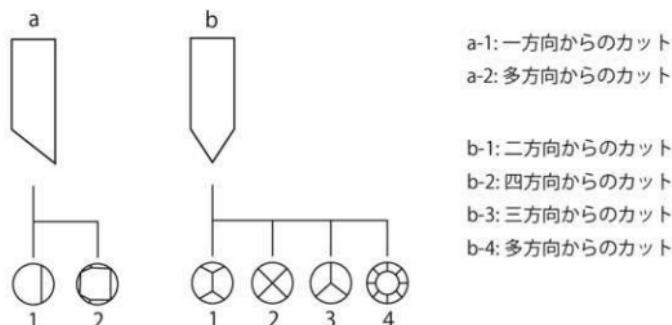
表10 出土陶器集計表

種別	器種	第4号 池跡	第31号 土坑	第1号 堀跡	第2号 堀跡	第6号 溝跡	第11号 溝跡	第5号 ピット群	第7号 ピット群	第2次 整地面	第3次 整地面	第6号 不明遺構
志野	皿	4		2	1	1	1	2		18	4	
	碗	1			1	12				1		2
	鉢	2			1							
	向付	1										
織部	向付	2										
	鉢										1	
天目	碗	1			1					11	1	
	茶入									1		
唐津	皿	2	1	6	1			1		35	2	
	碗	1									1	
	鉢							1		1	2	
	壺						2					

(2) 木製品

木製品は、ピット群に伴って出土している杭のほか、堀跡から下駄・鍼先・漆器などの生活用品が多数出土している。出土した下駄は一本造りの連歛下駄であるが、表面に漆などの塗布は確認できなかつた。鍼先は2点確認できたが、一点は長方形で斜めに加工された柄の差込み部が確認できた。使用している木材の樹種は、トネリコ属といった硬質で加工のしやすい木が使用されており、漆器と農工具で使い分けていたか、産地が別であることが分かる。

杭は今回記載したもの以外にも多数出土している。それらに関しては第43図で分類を行った。加工の種類は先端の断面加工法からa・bの2種類に大別でき、さらに6種類に細分が可能である。杭の加



第43図 出土杭分類図

工は b - 1 類と b - 4 類の数が多く見られ（表 10 参照），加工の際の使用道具は細かく加工を行っていることから幅約 2cmほどの盤によるものと考えられる。第 5 号ピット群から出土している五角・六角の柱材は、出土位置は離れているが、前回の調査の際にも出土していることから、建物に使われていた柱材加工の関連性が窺える。その他、種子や自然木などが 87 点出土している。

表 11 杭加工分類表

遺構	遺物	分類	備考（遺物番号）	遺構	遺物	分類	備考（遺物番号）
SE-8	竹	a	5	SA-4	杭・丸材	b-2	1
	杭・丸材	b-4	9		杭・丸材	b-3	2
SK-36	杭・角材	a	1	PG-5	杭・丸材	b-4	3
SD-9	杭・丸材	b-2	10		柱材（六角）	平坦	23
	杭・丸材	a	11		柱材（五角）	平坦	24
	杭・丸材	a	12		杭・丸材	b-3	25
	杭・丸材	a	13		柱材（丸材）	b-4	26
	杭・丸材		14		杭・丸材	b-1	27 組合せ加工
	杭・丸材	b-1	19		柱材（丸材）	b-4	28
	杭・丸材	a	20		杭・丸材	b-4	3
	杭・丸材		37		杭・丸材	b-1	4
	杭・丸材	b-1	41		杭・丸材	a	6
	杭・丸材		50		杭・丸材	b-2	7
SX-5	杭・丸材	b-1	51		杭・丸材	b-4	8
	杭・丸材	a	19	PG-6	杭・丸材	b-1	1
	角材	a	31		杭・丸材	b-1	2

3 おわりに

今回の調査では、織部・志野・唐津といった陶器、明から輸入された磁器のはか小柄や毛抜き、下駄や漆器、銀といった生活用品や農耕具などが多数確認できた。

陶磁器に関しては、当時の武家社会に茶道が浸透していたことや、織部などの高級陶磁器を広範な流通や商圈の拡大、あるいは遠隔地との人的・物的交流により入手したもの¹⁾と考えられる。特に織部焼は常陸国内からの出土例が少なく、宍戸城の過去の調査においてもほとんど出土していなかったものである。このことは屋敷ごとに嗜好が異なることを示唆するものである。

遺構に関しては、武家屋敷の景観の復元ができるまでの遺構は確認できなかった。しかし、武家屋敷に伴うと考えられる区画溝や、池跡、井戸跡が確認できたことから、平成 16 年度調査で判明した各屋敷に池や井戸が 1 基づつ配されていた²⁾ということが今回も実証することができ、武家屋敷様相の一端が判明した。また、廃城後の整地層と考えられる第 1 ~ 3 号整地層の下層から確認できた堀跡は絵図に記載されておらず、絵図が描かれる以前に機能していた中世城跡の堀と考えられ、中世城跡の縄張りを考える上での貴重な資料になるものと思われる。

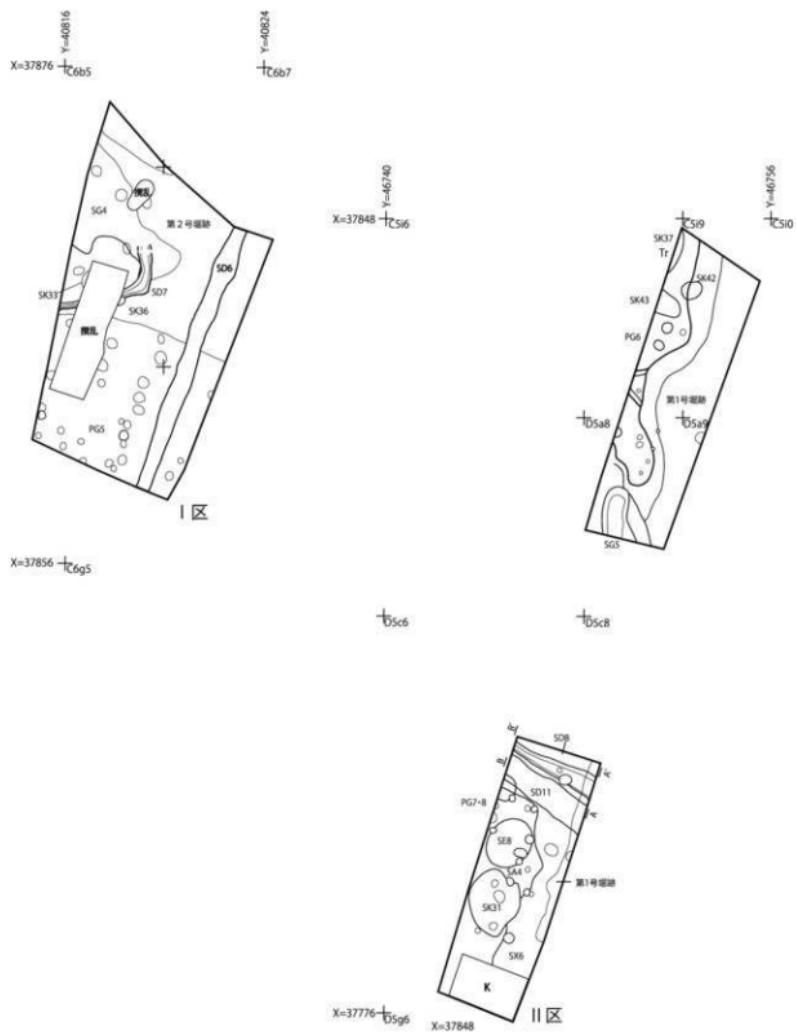
註

1) 福田義弘「新善光寺跡・宍戸城跡 主要地方道大洗友部線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財団文化財調査報告」第 256 集 2006 年 3 月

2) 註 1 と同じ

参考文献

- 間宮正光『宍戸城跡－店舗建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』株式会社コメリ・山武考古学研究所 2006 年 11 月
宮田忠洋『宍戸城跡－市道（友）2026 号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』笠間市教育委員会（有）毛野考古学研究所 2009 年 3 月



第44図 宮戸城跡全体図

付 章

宍戸城跡出土木製品の樹種同定結果

(株) 吉田生物研究所

1. 試料

試料は茨城県宍戸城跡から出土した鉢先 1 点、漆器 3 点（蓋 1、椀 2）の合計 4 点である。

2. 観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3. 結果

樹種同定結果（広葉樹 4 種）の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

1) ブナ科コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*)

第 2 号堀跡出土鉢先 (W24) (写真 No. 4)

放射孔材である。木口では年輪に関係なくまちまちな大きさの道管 ($\sim 200 \mu\text{m}$) が放射方向に配列する。軸方向柔細胞は接線方向に 1 ～ 3 細胞幅の独立帶状柔細胞をつくっている。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は單穿孔と多数の壁孔を有する。放射組織はおおむね平伏細胞からなり、時々上下縁辺に方形細胞が見られる。道管放射組織間壁孔は大型で横状の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と放射柔細胞の塊の間に道管以外の軸方向要素が挟まれている集合型と複合型の中間となる型の広放射組織が見られる。アカガシ亜属はイチイガシ、アカガシ、シラカシ等があり、本州（宮城、新潟以南）、四国、九州、琉球に分布する。

2) ブナ科ブナ属 (*Fagus* sp.)

第 4 号池跡出土漆器椀 (W10) (写真 No. 3)

第 1 号堀跡出土漆器蓋 (W20) (写真 No. 2)

第 6 号不明遺構出土漆器椀 (W28) (写真 No. 1)

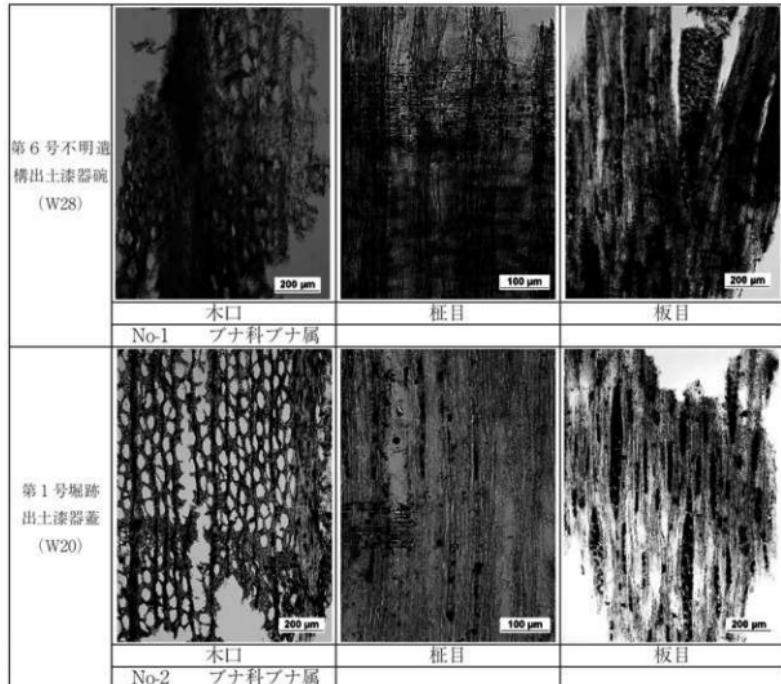
散孔材である。木口ではやや小さい道管 ($\sim 110 \mu\text{m}$) がほぼ平等に散在する。年輪の内側から外側に向かって大きさおよび数の減少が見られる配列をする。放射組織には単列のもの、2 ～ 3 列のもの、非常に列数の広いものがある。柾目では道管は單穿孔と階段穿孔を持ち、内部には充填物（チロース）が見られる。放射組織は大体平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型のレンズ状の壁孔が存在する。板目では放射組織は単列、2 ～ 3 列、広放射組織の 3 種類がある。広放射組織は内眼でも 1 ～ 3mm の高さを持った褐色の紡錘形の斑点としてはっきりと見られる。ブナ属はブナ、イスブナがあり、北海道（南部）、本州、四国、九州に分布する。

参考文献

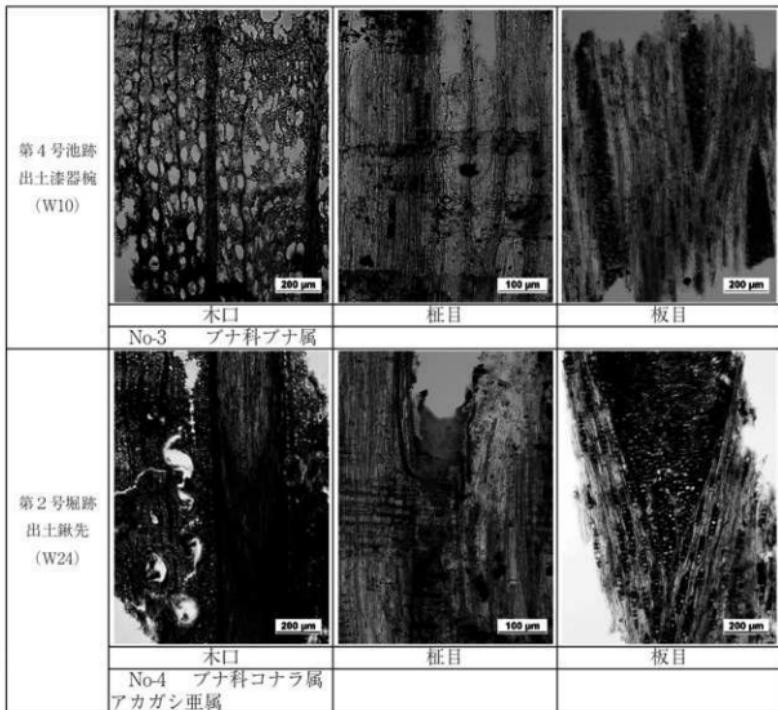
- 島地 謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版 1988年
 島地 謙・伊東隆夫『図説木材組織』地球社 1982年
 伊東隆夫『日本産広葉樹材の解剖学的記載 I-V』京都大学本質科学研究所 1999年
 北村四郎・村田 淳『原色日本植物図鑑木本編 I・II』保育社 1979年
 濑澤和三『樹体の解剖』海青社 1997年
 奈良国立文化財研究所『奈良国立文化財研究所 史料第27号 木器集成図録 近畿古代篇』1985年
 奈良国立文化財研究所『奈良国立文化財研究所 史料第36号 木器集成図録 近畿原始篇』1993年

使用顕微鏡

Nikon DS-Fi1



図版1 第1号堀跡出土漆器蓋(W20)、第6号不明遺構出土漆器椀(W28)顕微鏡写真



図版2 第4号池跡出土漆器椀(W10)、第2号堀跡出土鍔先(W24)顕微鏡写真

写 真 図 版



遺跡全景



第5号ビット群
完掘状況(1)



第5号ビット群
完掘状況(2)



第4号池跡
完掘状況

第 4 号 池 跡
遺 物 出 土 状 況



第 6 号 溝 跡
完 剥 状 況



第 8 号 井 戸 跡
遺 物 出 土 状 況





第1号 塚跡
遺物出土状況



第1号 塚跡
完掘状況



第6号 不明塚跡
完掘状況



HK 2-68



HK 2-43



第2号窑跡-91



第2号窑跡-92



第2号窑跡-93



第2号窑跡-94



第2号窑跡-95



第2号窑跡-97



第2号窑跡-98



第2号窑跡-99



第2号窑跡-103



HK 3-119



第1号窑跡-53



第1号窑跡-54



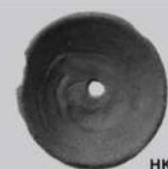
第1号窑跡-56



第1号窑跡-57



第1号窑跡-58



HK 3-118

第1·2号窑跡，第2·3次整地层出土土器



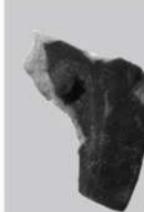
第4·5号池跡, 第31号土坑, 第1·2号窑跡, 第6号溝跡, 第2次整地層出土器



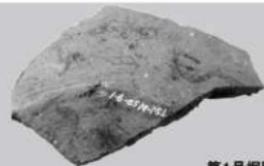
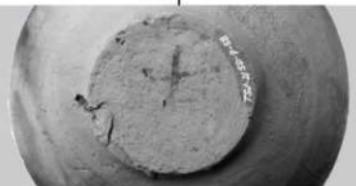
第1号堀跡-63



SX 6-116



SX 4-T1



第1号堀跡-65



第2号堀跡-106



HK 2-73



遺構外-139



遺構外-138



HK 3-124



第2号堀跡-TP16



HK 2-TP13



第2号堀跡-TP15



第2号堀跡-TP14



第2号堀跡-DP3



遺構外-DP5



HK 2-DP2



SK 31-DP1



第2号堀跡-DP4

第31号土坑，第1·2号堀跡，第2次整地層，遺構外出土器・土製品・瓦



SG 4-21



SG 4-22



SG 4-24



SG 4-27



HK 2-76



HK 2-89



第2号堀跡-Q4



HK 2-Q3



遺構外-Q5



遺構外-Q6



SE 8-Q1



第1号堀跡出土砾

第8号井戸跡, 第4号池跡, 第1・2号堀跡, 第2次整地層, 遺構外出土陶器・石器・石製品



第4号池跡, 第2号堀跡, 第6号溝跡, 第7号ビット群, 第2・3次整地層, 遺構外出土鉄製品



SX 6-W28



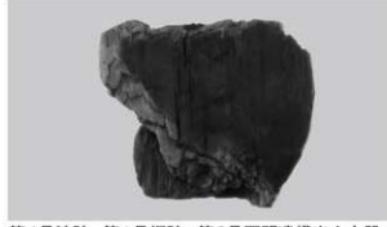
SG 4-W10



第1号堀跡-W20



第1号堀跡-W19



第1号堀跡-W15

第4号池跡, 第1号堀跡, 第6号不明遺構出土木器・木製品

PL10



第1号堀跡-W14



第1号堀跡-W13



第2号堀跡-W22



第2号堀跡-W23

第1・2号堀跡出土木製品（下駄）



第2号堀跡-W24



第2号堀跡-W25

第2号堀跡出土木製品（銀先）

抄 錄

印 刷 仕 様

編 集 O S Microsoft Windows XP
Professional Version2002ServicePack3
編集 Adobe Indesign CS4
図版作成 Adobe Illustrator CS4
写真調整 Adobe Photoshop CS4
Scanning 6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000
図面類 EPSON GT-X750
使用Font OpenType リュウミンPro・L
写 真 線数 モノクロ175線以上 カラー210線以上
印 刷 印刷所へは、Adobe Indesign CS4でレイアウトして入稿

茨城県教育財團文化財調査報告第342集

宍 戸 城 跡

主要 地方道大洗伊部線道路改良
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

平成23（2011）年 3月17日 印刷

平成23（2011）年 3月23日 発行

発行 財團法人茨城県教育財團
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6387
H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 山三印刷株式会社
〒311-4153 水戸市河和田町4433-33
TEL 029-252-8481